

2000年度

# 講義計画

桃山学院大学

講 義 計 画

国 情 概 観

東京大学出版会

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
法学	01	通 期	4 単位	前田 徹生
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>概要</p> <p>市民の社会生活に関連の深い法分野について、基礎的な知識を講述する。 私語・遅刻は厳禁。 なお、下記の教科書は毎授業時間に携帯すべき本という意味である。</p> <p>目 標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 社会生活における法の作用や役割について理解させる。</li> <li>2 憲法、民法及び行政法の基礎を理解させる。</li> <li>3 基本的人権、権利擁護、成年後見制度等社会福祉士に必要な内容について理解させるよう留意する。</li> </ol>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 社会生活と法</li> <li>2 憲法 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 基本原理</li> <li>2) 基本的人権</li> <li>3) 地方自治</li> </ol> </li> <li>3 民法 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 総則（成年後見を含む）</li> <li>2) 物権</li> <li>3) 契約</li> <li>4) 不法行為</li> <li>5) 親族</li> <li>6) 相続</li> </ol> </li> <li>4 行政法 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 行政行為及び行政手続</li> <li>2) 行政不服審査</li> <li>3) 行政訴訟</li> <li>4) 情報公開</li> <li>5) 地方行政組織</li> </ol> </li> </ol>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>前期、後期の二度の試験を総合して評価する。</p>	<p>参考文献]</p> <p>伊藤正己・加藤一郎 編 『現代法入門』〔第3版補訂版〕 有斐閣  中谷実 編 『ハイブリッド憲法』 頸草書房  芦部信喜 『憲法』 岩波書店  谷口知平・甲斐道太郎 編 『現代民法入門』〔新版〕 法律文化社</p>			
<p>[教科書]</p> <p>伊藤正己 『法学』〔第二版〕 有信堂</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
法学	02	通 期	4 単位	寺田 友子
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>学習目標 刑事手続を素材に日本国憲法の人権保障・違憲法令審査制度について理解を深める。</p> <p>講義概要 日本国憲法は、明治憲法下の人権侵害を反省して詳細な人権保障条項を規定した。前期は、日本国憲法制定史をも踏まえて、国家の国民に対する権力行使である刑罰権の発動にかかわる罪刑法定主義を理解する。その前提として、刑罰の意義及び種類並びに犯罪成立要件についての基礎的知識をも体得する。それまでの基本的知識を整理し、理解を深めるために安楽死判決を素材にする。その判決を学ぶ過程で、法源の機能、法の適用過程等について理解する。次に、日本国憲法の最高法規性を学んだ上で、死刑の合憲判決、尊属殺人罪違憲判決を詳細に検討する。その過程で家族法に関する基本的概念を学ぶ。又、平等原則についても理解を得たうえで、非嫡出子の相続分規定の合憲判決も検討する。その過程で違憲法令審査制度の機能について理解する。</p> <p>後期は、法源の種類（憲法の意義、条約、法律、命令、条例、最高裁判所規則、議院規則）、形式的効力等法の効力等についても憲法訴訟（砂川事件、奈良県ため池条例事件、徳島県公安条例事件、NHK放送公布事件、官報公布事件等々）を素材に理解を深める。その際、三権分立等国家の機構についても理解する。これらの判決を学ぶ過程で、人権保障の内容（刑事 補償と国家賠償）と憲法の最高法規性、違憲法令審査制度についても理解を深める。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>前期 §1 刑罰の種類  2 犯罪成立要件  3 法の適用過程  4 安楽死訴訟  5 憲法の最高法規性と違憲法令審査制度  6 死刑の合憲判決  7 尊属殺人罪と家族法の基礎概念  8 平等原則と尊属殺人罪違憲判決</p> <p>後期 9 法治国家と罪刑法定主義  10 命令概念と行政機構  11 全農林警職法事件と労働基本権  12 条例概念と大阪市売春防止条例  13 奈良県ため池条例事件と徳島条例事件  14 形式的効力の原則と条約の概念  15 法の時間的効力と公布をめぐる諸般判決  16 同位の法間の効力関係と国家補償  17 損害賠償における特別法と一般法</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>基本的には、前期及び後期に行うテストで成績評価を行うが、レポート提出、出席、授業時間に行うテスト等評価に加味する場合がある。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>中谷実編『ハイブリッド憲法』 1995年 勁草書房  渡辺洋三著『法とは何か』 岩波書店  渡辺洋三著『法を学ぶ』 岩波書店</p>			
<p>[教科書]</p> <p>芦部信喜他11名編『コンパクト六法 平成12年版』（岩波書店）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
心理学	01	通 期	4 単位	冷水 啓子
<b>[講義概要・学習目標]</b>	<b>[講義計画]</b>			
1 心理学の概要を理解させる。 2 乳幼児期・児童期・青年期・老年期等人間の発達段階のそれぞれの時期に特有な身体的、心理的特徴について理解させる。 3 心理学理論による人間理解とその技法の基礎について理解させる。 4 心理的援助技法の概要について理解させる。 5 社会福祉士に必要な内容について理解させるよう留意する。	1 人間の心理学的理解 1) 欲求・動機づけと行動 2) 感情・情動 3) 感覚・知覚・認知 4) 学習・記憶・思考 5) 知能・創造性 6) 人格 7) 適応と適応異常 2 人間の成長・発達と心理 3 人間理解のための心理学理論と技法 1) 基礎理論 ①精神分析 ②行動分析 2) 測定と診断 ①発達 ②知能 ③性格 4 心理的援助技法の概要 1) 心理療法（個別面接法・集団面接法） 2) 家族心理療法 3) 行動療法			
<b>[成績評価の方法]</b>	<b>[参考文献]</b>			
学年末に試験を実施する。必要に応じて、簡単な実験・調査への参加やレポート提出などを求める。それらの結果に基づき総合的に評価を行う。	市川伸一（編）『心理測定法への招待』（サイエンス社） 松原達哉（編）『最新 心理テスト法入門』（日本文化科学社） 中島義明（編）『メディアに学ぶ心理学』（有斐閣） 大村彰道（編）『教育心理学Ⅰ—発達と学習指導の心理学—』（東京大学出版会） 下山晴彦（編）『教育心理学Ⅱ—発達と臨床援助の心理学—』（東京大学出版会）			
<b>[教科書]</b>				
福祉士養成講座編集委員会（編）『心理学』（中央法規）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
心理学	02	通 期	4 単位	伊 藤 高 章
<b>[講義概要・学習目標]</b>	<b>[講義計画]</b>			
Psychology という語は、語源的には魂（たましい）もしくは霊に関する学問という意味である。そして、人類の歴史においてこの魂や霊のことがらは、永く宗教が扱ってきた。本講義では前期において、宗教と心理学との関係を明らかにしてゆくことを通し、近代心理学のもつ人間観の特徴を理解することを目指す。その際特に、フロイトとユングが展開した無意識に関する理論に注目する。後期においては、他者の魂の声に耳を傾ける姿勢を養う意味で、カウンセリング及び「カウンセリング・マインド」について学ぶ。	以下の内容を含む <前期> 諸宗教における心のケア フロイトの宗教観・人間観 ユングの宗教観・人間観 近代心理学の展開 <後期> カウンセリングの人間観 カウンセリング理論の前提 カウンセリングの理論			
<b>[成績評価の方法]</b>	<b>[参考文献]</b>			
出席を重視する。 教科書のほか3～4冊分のブック・レポートを課す。 学年末試験。				
<b>[教科書]</b>				
山中康裕（1996）『臨床ユング心理学入門』（PHP新書 004） 小此木啓吾（1989）『フロイト』（講談社学術文庫 860） 平木典子（1989）『カウンセリングの話 増補』（朝日選書 375）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
心理学	03 04	通 期 通 期	4 単位 4 単位	伊 藤 正 人
<b>【講義概要・学習目標】</b> 現代の心理学では、実験や観察という客観的方法により、ヒトや動物の行うあらゆる行動を組織的に研究する。心理学の課題は、このような行動へ影響する様々な要因を探索し、行動の原理（法則）を定式化し、我々の日常場面における様々な複雑な行動を説明することである。近代的心理学の出発点は、ドイツの心理学者Wundtがライプツヒ大学に世界で最初の心理学実験室を創設した1879年にさかのぼる。現在までおよそ120年の現代心理学の歴史は、「こころ」という多義的で曖昧な対象をどの様に捉えるかということに腐心してきた足跡であるといえる。このような先達の努力を振り返ることは、真の意味で心理学の理解を深めることになる。 本講義は、心理学の歴史をたどりながら、現代心理学の課題を理解するための枠組みを提示する。また、教室で心理学の実験を行い、受講者が被験者となることで、心理学のより深い理解を促進させる。		<b>【講義計画】</b> 前期では、まず、心理学の歴史を振り返り、現代心理学の課題を提示する。続いて、心理学の各領域の課題を網羅的に眺めてみる。取り上げる領域は、行動・学習、動機づけ・情動、知覚・認知、パーソナリティである。 後期では、心理学の領域のうち、学習の問題に焦点を当て、「学習の原理」が我々の日常場面の様々な行動にどの様に適用出来るのかを考える。また、名作映画のなかに現れる心理学の問題を取り上げて題材としたい。取り上げる映画は、以下のものである。 「時計じかけのオレンジ」(1971年)、「オズの魔法使い」(1939年)、「羊たちの沈黙」(1991年)、「2001年宇宙の旅」(1968年)、「心の旅路」(1942年) 各自レンタルビデオ等で見ておくこと。		
<b>【成績評価の方法】</b> 成績評価は、講義中に行う数回の小テストと学年末試験による。		<b>【参考文献】</b> 心理学事典 平凡社 現代基礎心理学全12巻 東京大学出版会 行動心理ハンドブック 培風館 心理学双書全10巻 有斐閣 「メイザーの学習と行動」二瓶社		
<b>【教科書】</b> 糸魚川・春木編「心理学の基礎」（前期）有斐閣 佐藤方哉 「行動理論への招待」（後期）大修館				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
心理学	05	通年	4 単位	林 陸 雄
<b>【講義概要・学習目標】</b> 個々の人間について、その特性を的確に把握理解することは困難である。しかし、現実社会が多くの多様な価値観と生き方をもつ人々によって構成され、それらの人々の相互作用によって営まれている以上、人々にとつて的確な人間理解能力は必要不可欠といえよう。 個々の人間理解の前段として、一般的に人間とは何か、人間はどのように行動するのかについて、現代心理学の立場から概観する。 テキストを中心に展開するが、時には、ビデオ視聴または指定図書の見聞によって人間理解を深める工夫をしたい。小レポートはそれらと関連して課すので、出席常ならざる履修生は、情報入手ならびに対応で苦慮することになるであろう。要注意である。		<b>【講義計画】</b> 1. 心理学とは1 2. 心理学とは2 3. 知覚の仕組み1 4. 知覚の仕組み2 5. 知覚の仕組み3 6. 記憶の仕組み1 7. 記憶の仕組み2 8. 記憶の仕組み3 9. 思考の仕組み1 10. 思考の仕組み2 11. 思考の仕組み3 12. 前期の補足1 13. 前期の補足2 14. 前期のまとめ1 15. 前期のまとめ2 16. 社会的認知の仕組み1 17. 社会的認知の仕組み2 18. 社会的認知の仕組み3 19. 感情の働き 20. 動機づけとは 21. パーソナリティとは1 22. パーソナリティとは2 23. パーソナリティとは3 24. 発達と成長1 25. 発達と成長2 26. 発達と成長3 27. 後期の補足1 28. 後期の補足2 29. 後期のまとめ1 30. 後期のまとめ2		
<b>【成績評価の方法】</b> 2/3以上の出席、数回の小レポート、期末考査の結果を総合して行う。		<b>【参考文献】</b> 授業中に適宜紹介する。		
<b>【教科書】</b> 北尾倫彦、中島実、井上毅、石王敦子 共著 『グラフィック 心理学』 サイエンス社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
有限数学 (旧数学 I)		通期	4 単位	大崎 浩一
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>小中高と学んでいくうち、数学が嫌いになった人は多いと思います。無味乾燥で現実と無関係だと印象を持っている人もいます。</p> <p>しかし、数学は無味乾燥な知識体系として突然出現したのではなく、他人と理性的に議論を進めることや、定量的に物事を扱うことから発展した知識体系です。</p> <p>本講義の目的は、理性的に議論を進め、他人と合意に達するための道具としての数学に光を当てることにあります。言い換えると、丸暗記したものを吐き出すだけの数学を扱うことはしません。</p> <p>高校での数学の知識は要求しません。内容的には高校までの数学と重複することもあるでしょうが、まったく新しい切り口で扱います。</p> <p>連絡は掲示によって行いますから、常に掲示に留意して下さい。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>&lt;前期&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・論理学の基礎</li> <li>・集合論の基礎</li> </ul> <p>(筋道ある考えや表現法の基礎である論理学と、現代数学の基本的道具である集合論を扱います)</p> <p>&lt;後期&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ベクトルと行列の基礎</li> <li>・ベクトルと行列の応用</li> </ul> <p>(「いくつかの数をまとめて扱うため、数の概念を拡張する」という視点からベクトルと行列を取り上げ、のち、基礎だけで展開できる応用問題を扱います)</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学年末の試験を中心に、平常成績を考慮して評価します。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>細井 勉著、教養の数学、新曜社  大村 平著、論理と集合のはなし、日科技連出版社  大村 平著、行列とベクトルのはなし、日科技連出版社</p>		
<p>[教科書]</p> <p>指定なし</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
解析学 (旧数学II)		通期	4 単位	大崎 浩一
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>小中高と学んでいくうち、数学が嫌いになった人は多いと思います。無味乾燥で現実と無関係だと印象を持っている人もいます。</p> <p>しかし、数学は無味乾燥な知識体系として突然出現したのではなく、他人と理性的に議論を進めることや、定量的に物事を扱うことから発展した知識体系です。</p> <p>本講義の目的は</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・“変化”を抽象的に捉える枠組みである関数概念の理解、</li> <li>・関数を扱うための学問である微分積分の初歩の理解、</li> <li>・数学を扱うソフトウェアに慣れること</li> </ul> <p>です。</p> <p>高校での数学の知識は要求しません。内容的には高校までの数学と重複することもあります。全く新しい切り口で扱います。</p> <p>連絡は掲示によって行いますから、常に掲示に留意して下さい。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>&lt;前期&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Macintosh の初歩</li> <li>・Mathematica の初歩</li> <li>・関数とは</li> <li>・関数の実例</li> <li>・極限とは</li> <li>・微分とは</li> </ul> <p>&lt;後期&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・微分とは (承前)</li> <li>・積分とは</li> <li>・応用 (受講生の状況に応じて扱う応用の範囲を決めます)</li> </ul>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学年末試験の成績を中心に平常成績を考慮して評価します。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>井上 真著、見る微分積分学-Mathematica によるイメージトレーニング、東京電機大学出版局  一松 信著、初等関数概説-いろいろな関数-、森北出版  一松 信著、微分積分 I 初めて学ぶ人に、丸善  黒田 俊郎著、指数・対数のしくみ、三省堂  黒田 俊郎著、三角比のろまん、三省堂</p>		
<p>[教科書]</p> <p>黒田 俊郎著、微分のひみつ、三省堂  黒田 俊郎著、積分のいずみ、三省堂</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
統計学		通 期	4 単位	井 上 勤
<b>【講義概要・学習目標】</b> 理論的なものは出来るだけさけて具体例から統計学の講義を進めて行く。多くの分野に応用されるのであるが、高校「数学Ⅰ」の知識があれば十分である。最も重要な事は学習意欲である。計算では電卓と使用するのをご必修である。	<b>【講義計画】</b> 1. 記述統計(度数分布代表値、散布度) 2. 確率分布(代表的なものとして二項分布、正規分布) 3. 推測統計(推定、検定)			
<b>【成績評価の方法】</b> 主資料は前期末(7月)後期末(1月)試験であるが平常授業の出席状況、問題演習も加味する。	<b>【参考文献】</b>			
<b>【教科書】</b> 小寺平治著 新統計入門 裳華房				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
環境問題概論 (旧生物学)	01	通 期	4 単位	巖 圭 介
<b>【講義概要・学習目標】</b> 環境問題に関するニュースがマスメディアに流れない日はない。ダイオキシン、環境ホルモンといった、人体に悪影響があるとされる人工化学物質の検出、シックハウス症候群やアレルギー、家庭ゴミや産業廃棄物の処理機能の限界、リサイクル、省エネルギー、環境に優しい製品、水や大気の汚染、オゾンホール、地球温暖化。あふれかえる情報はかえって市民の感覚をマヒさせ、センセーショナルリズムと虚無、そして不安に乗じた似非(えせ)科学をはびこらせる。 今必要とされるのは、上滑りなマスゴミの情報に惑わされないための正しい基礎知識と、いたずらに不安を増幅させられないための基本的なものの考え方である。この授業では現在の主要な環境問題についての基礎的な理解を深め、環境意識を高めてもらいつつ、環境に関する情報の洪水の中を泳ぎ抜く力をつけてもらうことを目的とする。	<b>【講義計画】</b> おおむね次のようなテーマに沿って進行する。 ・破壊される地球システム 酸性雨、オゾン層破壊、地球温暖化 ・あふれるゴミ ・汚される地球 DDT・PCB、ダイオキシン、環境ホルモン ・水質汚染 ・失われる熱帯雨林 ・砂漠化する大地 ・人口爆発			
<b>【成績評価の方法】</b> 前期末と後期末2回の論述式試験、夏休み、冬休みのレポートに加え、授業中に数回提出してもらう感想文により判定する。	<b>【参考文献】</b> 適宜授業中に示す			
<b>【教科書】</b> とくになし				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
環境問題概論 (旧生物学)	02	通 期	4 単位	鈴木善次
<b>【講義概要・学習目標】</b> 今日、私たちに取り巻く環境は人類の歴史始まって以来の きびしい状況にある。地球温暖化、オゾン層破壊、ダイオキシン 汚染、環境ホルモン問題など多くの問題が顕在化しているから である。 本講義では、こうした環境問題の現状と、その背景を検討 し、これからの人類生存のあり方を学生諸君と考えてみたい。 受講学生には、自分たちのライフスタイルを問い直す力を 身につけてほしいと考えている。	<b>【講義計画】</b> 1. 環境とは何か、環境主体とは何か、生物としてのヒト。 2. 環境問題とは何か。 3. 環境問題といわれるものの具体例 (1) 地域的課題 (2) 地球規模の課題 4. 望ましい文明とは？ 科学文明の功罪。 以上の項目について、ビデオ教材などを用いながら、学生諸君 からのレポート提供とともに検討する。			
<b>【成績評価の方法】</b> 前期には夏休みのレポート提出、後期には期末テスト により、ときどき感想文提出を課し、これらで総合して評価。	<b>【参考文献】</b> 鈴木善次『人間環境教育論』(創元社)1994年。			
<b>【教科書】</b> なし				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
運動生理学 (旧生理学)		通 期	4 単位	永谷峯男
<b>【講義概要・学習目標】</b> 呼吸をする、心臓が拍動する、歩くそして走る、そして表情や喋ることま で、いずれも、意識、無意識であれ筋のはたらきです。骨はからだを支え、護 るとともに造血の働きもします。脳を含む神経系やホルモン系は、からだをコ ントロールしバランスを保ちます。また、スポーツトレーニングはこれらの知 識を基礎として、科学的に行われなければなりません。 本学は文化系大学ですが、人間を理解することは大切で、欠かせないと考え ます。その中で、人体の「しくみ」と「はたらき」から学ぶことは多いと思ひ ます。 人間は緊張もするしリラックスもします。表情にも、立ち居振る舞いの動作 にもそれが現れます。普段の生活でも経験しますが、スポーツの試合やゲーム の場面では端的です。何故でしょうか。 いまの運動生理学はミクロの世界の分子や電子そして遺伝子へと難解かもし れません。また、研究が分業化され、理解しにくくしているとも思ひます。 本講義では、私たちの生活での、あるいは運動をする時の、からだの働きか ら「なぜ」「どうして」の人体の疑問と理解を目指します。	<b>【講義計画】</b> 1. からだは何故動くか 2. 骨格筋の構造と機能 3. 運動と筋 4. 骨の構造と機能 5. 運動と骨代謝 6. 神経系の構造と機能 7. 神経系による運動の調節 8. 運動と呼吸 9. 運動と心循環・末梢循環 10. 運動とエネルギー代謝 11. 瞬発的な運動と持久的な運動 12. 運動とホルモン分泌 13. スポーツとドーピング 14. スポーツトレーニング 15. 運動と生活習慣病			
<b>【成績評価の方法】</b> 前期試験・後期試験および小テストなどにより成績評価する。 出席点を加える。	<b>【参考文献】</b> 授業の進行に合わせてしらせます。			
<b>【教科書】</b> 指定しない。必要に応じプリントを配布する。				



科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本近代文学		通 期	4 単位	佐 藤 慶 子
<p><b>[講義概要・学習目標]</b>                      日本近代文学を概観する。近世文学から近代文学への重要な過渡期であった、明治文学を中心にし、大正・昭和・平成へと、現代につながる文学の流を追い、微妙な人間心理をより細やかに描き出すようになった文学者達の歩道と挫折の上へ、現代の文学が築き上げられたことを再認識してもらいたい。従って試行錯誤の跡を辿りながら、文学の発展と同時に、その背後の社会についても考えよう。</p>	<p><b>[講義計画]</b>                      講義形式で、資料をもとに、解説を交えていく。意見を求めたり、積極的に参加してほしい。</p>			
<p><b>[成績評価の方法]</b>                      毎回、最初の十分間、前回の講義の理解度をチェックするレポートを書かせ、平常点とする。出席重視。期末試験は授業中の態度を考慮。</p>	<p><b>[参考文献]</b>                      必要に応じて紹介する。</p>			
<p><b>[教科書]</b>                      資料をコピーして配付する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
西洋文学		通 期	4 単位	本 多 雄 一 郎
<p><b>[講義概要・学習目標]</b>                      現代の文学理論においては、読者こそが作品の意味を産み出すのだという考えから、文学作品と読者との関係が重要視されつつあるが、まさにその読者という立場にある皆さんが、西洋文学を読む上で必要とされる基礎的事項を習得していくことを目標とする。                      そして西洋文学を代表する個別の作品にも触れつつ、それらが提示する問題や思想について論じていく予定である。</p>	<p><b>[講義計画]</b>                      前・後期を通して、西洋文学の思潮の変遷、ジャンル、社会的背景や問題点などについて概説するとともに、実作品を検討していく。</p>			
<p><b>[成績評価の方法]</b>                      授業への参加度とレポートで評価する。</p>	<p><b>[参考文献]</b>                      適時指示する。</p>			
<p><b>[教科書]</b>                      大塚幸男著『ヨーロッパ文学思潮史』白水社</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
西洋社会史 (旧 社会科学概論 I)		通 期	4 単位	種 田 明
<p><b>[講義概要・学習目標]</b>                      本講義は社会科学の、なかでも社会史を中心に、阿部謹也氏の歴史研究を解説し、現代世界に生きる私たちが抱える諸問題を読み解くための基本認識、あるいはそのためのヒントを探ることを目的としている。                      社会科学とは、政治学・経済学・社会学などを基軸として、現実の社会・世界を解剖し分析する学問の総称である。日本においても、また世界においても 1970 年代からさまざまな「社会史」が巷間に溢れ出てきている。社会科学の中の社会史は、総合的な視角から人間と人間集団（地域、民俗、社会…）を「全体」として捉えていくべきものであろう。狭義としての、人間活動の特定領域を対象とする部分史ではなく、「社会（全体）史」として広義に考えてゆきたい。                      阿部社会史の方法は、人と人／人とモノとの「関係」（絆・交換・贈与…）をドイツ中世からさぐり、日本との比較を試みるものである。読み解くなかから「生きる」「生活する」ことの意味を考え、学問の厳しさと楽しさを味わってほしい。知的好奇心旺盛な、積極的に質問・疑問を投げかけてくれる受講生の参加を期待している。</p>		<p><b>[講義計画]</b>                      3 分の 2 ドイツ中世社会史の諸問題を通して、現代につながり現代と交差するものはなにかを考え講義解説していく。                      U・エーコ「薔薇の名前」の VTR をみて、修道院について概観する。                       3 分の 1 ドイツ中世都市フランクフルトについての研究（都市史）の概要について解説講義する。</p>		
<p><b>[成績評価の方法]</b>                      出席・平常（小テスト） 10 + 20% 欠席 5 回は受験資格なし                      試験（講義最終日） 70%</p>		<p><b>[参考文献]</b>                      講義中に提示する。</p>		
<p><b>[教科書]</b>                      阿部謹也『社会史とは何か』筑摩書房、1989年                      小倉欣一・大澤武男『都市フランクフルトの歴史』中公新書、1994年</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会思想 (旧社会科学概論 II)		通 期	4 単位	坂 昌 樹
<p><b>[講義概要・学習目標]</b>                      社会的存在である人は、少しでも住みよい社会を実現するためにさまざまな考えを提案してきました。なかでもヨーロッパ近代には、既存の体制を転覆する革命的思想から逆にそれを正当化する保守的思想まで、歴史的状況に応じて諸説が論じられています。これらの諸思想は、現代のわれわれの社会のあり方をも規定している点で重要です。この講義ではそれらの思想の代表的なものを、それぞれの社会状況との関連でかいま見ようと思います。                      学習の重点は、西洋近代の市民的個人主義の構築とその展開にあります。思想といえば抽象的で難解な内容になりがちですが、なるべくわかりやすく、ゆっくり進めていきたいと思います。</p>		<p><b>[講義計画]</b>                      1. 導入：社会思想とはなにか、中世のキリスト教的世界観                      2. 近代的主体の析出：マキアヴェッリ、ルター                      3. 市民的個人主義の国家構想：ホブズ、ロック、ルソー、カント                      4. 市民的個人主義の社会構想：スミス、J. S. ミル                      5. 市民的個人主義への批判：ヘーゲル、マルクス、女性解放思想</p>		
<p><b>[成績評価の方法]</b>                      学期末試験を中心にして総合的に評価する。</p>		<p><b>[参考文献]</b>                      必要があれば、講義中に指示します。</p>		
<p><b>[教科書]</b>                      指定しない。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者																												
教育原理 I・II (旧教育学)	01	前・後期	4単位	竹 中 暉 雄																												
教育原理 I・II (旧教育学)	02	前・後期	4単位																													
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>教育学とは何も、教師や教職志望者のためにのみあるのではない。子どもの成長と能力の発達に影響を与えるのは、決して学校の教師だけではないからである。将来の親、あるいは社会人として、またこれまで教育を受けてきた体験者として、教育について客観的に考えるための素材を提供する。</p> <p>前期には、なぜ人間だけが長期にわたる教育を必要とするのか、そしてなぜそのことが可能なのかを、脳科学の助けを借りて考える。その次には、どのような人間をつくるのかという教育理念・目的が問題となる。その時代背景との関係のなかで歴史の変遷を追い、現代の私たちに問われている教育目的について考察する。</p> <p>後期には、本来は私的で個人的なものでありながら、現実には法令に基づき国家的な制度として行なわれる学校教育が孕んでいる諸問題について考える。現代のさまざまな教育問題の根源はおもにこの矛盾から派生してきている。制度的な教育にはそれなりの利点があるけれども、ともすれば個人の自由や自主性が無視される側面も存在するからである。</p> <p>身近な具体例をあげて講義するので、質問・意見があればどんどん出して下さい。質問票およびE-mail (takenaka@andrew.ac.jp) の形で受けつけています。</p>	<p>[講義計画]</p> <table border="0"> <tr> <td>前期</td> <td>後期</td> </tr> <tr> <td>1 教育の定義</td> <td>1 義務教育と登校拒否</td> </tr> <tr> <td>2 人間の教育必要性和教育可能性</td> <td>2 家庭での就学</td> </tr> <tr> <td>3 我・汝関係と教育関係</td> <td>3 進級・卒業の問題</td> </tr> <tr> <td>4 教師と教育的タクト</td> <td>4 学習指導要録の問題</td> </tr> <tr> <td>5 人間の脳の特異性</td> <td>5 指導要録の問題</td> </tr> <tr> <td>6 遺伝と環境の問題</td> <td>6 教職の性質</td> </tr> <tr> <td>7 生涯学習の必要性和可能性</td> <td>7 研修義務</td> </tr> <tr> <td></td> <td>8 経済的待遇</td> </tr> <tr> <td>8 近代教育論の始まり「合自然」の教育論</td> <td>9 部活動指導</td> </tr> <tr> <td>9 「反合自然」の教育論</td> <td>10 教員定数</td> </tr> <tr> <td>10 児童中心主義の意義</td> <td>11 教師と体罰</td> </tr> <tr> <td>11 実存主義からの問題提起</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12 「個」か「集団」か</td> <td></td> </tr> </table>				前期	後期	1 教育の定義	1 義務教育と登校拒否	2 人間の教育必要性和教育可能性	2 家庭での就学	3 我・汝関係と教育関係	3 進級・卒業の問題	4 教師と教育的タクト	4 学習指導要録の問題	5 人間の脳の特異性	5 指導要録の問題	6 遺伝と環境の問題	6 教職の性質	7 生涯学習の必要性和可能性	7 研修義務		8 経済的待遇	8 近代教育論の始まり「合自然」の教育論	9 部活動指導	9 「反合自然」の教育論	10 教員定数	10 児童中心主義の意義	11 教師と体罰	11 実存主義からの問題提起		12 「個」か「集団」か	
前期	後期																															
1 教育の定義	1 義務教育と登校拒否																															
2 人間の教育必要性和教育可能性	2 家庭での就学																															
3 我・汝関係と教育関係	3 進級・卒業の問題																															
4 教師と教育的タクト	4 学習指導要録の問題																															
5 人間の脳の特異性	5 指導要録の問題																															
6 遺伝と環境の問題	6 教職の性質																															
7 生涯学習の必要性和可能性	7 研修義務																															
	8 経済的待遇																															
8 近代教育論の始まり「合自然」の教育論	9 部活動指導																															
9 「反合自然」の教育論	10 教員定数																															
10 児童中心主義の意義	11 教師と体罰																															
11 実存主義からの問題提起																																
12 「個」か「集団」か																																
<p>[成績評価の方法]</p> <p>数回の授業コメントカードおよび前期末・後期末の2度の論述試験による。I、IIを同一年度に合格しないと単位認定できないので注意のこと。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>テキストに記載されている引用文献・参考文献</p>																															
<p>[教科書]</p> <p>竹中・中山・宮野・徳永（共著）『時代と向き合う教育学』ナカニシヤ出版 1997年</p>																																

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者																								
図書館通論 (図書館概論)		前期	4単位	志 保 田 務																								
図書館資料論		後期																										
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>図書館、図書館情報学のおおよそについて平易に概説する。まず、図書館とは何をすところかを把握し、図書館の果たす役割について考える。そこでは情報と図書館の関係、社会と図書館の関係、生涯学習社会について検討する。</p> <p>次に図書館を構成する要素を確かめる。図書館の要素は、図書→資料→情報、館（建物）→図書館システム、図書館員→司書（専門職員）→利用者（住民）の4点に分かれるが、本講義では、利用者（住民）および図書館システムに焦点をおく。ここでは図書館サービスが追究の対象となる。図書館に各種の館種があるが、ここでは公共図書館を中心に論じる。まとめとして図書館の自由と図書館経営について論じ、図書館世界の将来、電子図書館やバーチャライブラリについて検討する。</p> <p>図書館を構成する要素のうち、最も特徴的な要素、図書館資料について講義する。図書を中心に、各種の資料について検討する。特に資料の電子化に注目する。電子ブック、電子図書館、インターネット等に言及する。</p>	<p>[講義計画]</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 図書館とはなにか</td> <td>11. 図書館資料論</td> </tr> <tr> <td>2. 図書館の果たす役割</td> <td>12. 図書館資料の種類</td> </tr> <tr> <td>3. 情報の伝達と図書館</td> <td>13. 資料の生産と流通</td> </tr> <tr> <td>4. 社会、生涯学習と図書館</td> <td>14. 資料の選択法</td> </tr> <tr> <td>5. 図書館の構成要素</td> <td>15. 資料選択論</td> </tr> <tr> <td>6. 図書館の種類（館種）</td> <td>16. 図書館の自由</td> </tr> <tr> <td>7. 公共図書館：理念</td> <td>17. 電子資料、電子情報</td> </tr> <tr> <td>8. 公共図書館の歴史と現代</td> <td>18. ネットワーク</td> </tr> <tr> <td>9. 公共図書館の利用者</td> <td>19. インターネット</td> </tr> <tr> <td>10. 図書館の自由</td> <td>20. 著作権</td> </tr> <tr> <td></td> <td>21. 公貸権</td> </tr> <tr> <td></td> <td>22. まとめ</td> </tr> </table>				1. 図書館とはなにか	11. 図書館資料論	2. 図書館の果たす役割	12. 図書館資料の種類	3. 情報の伝達と図書館	13. 資料の生産と流通	4. 社会、生涯学習と図書館	14. 資料の選択法	5. 図書館の構成要素	15. 資料選択論	6. 図書館の種類（館種）	16. 図書館の自由	7. 公共図書館：理念	17. 電子資料、電子情報	8. 公共図書館の歴史と現代	18. ネットワーク	9. 公共図書館の利用者	19. インターネット	10. 図書館の自由	20. 著作権		21. 公貸権		22. まとめ
1. 図書館とはなにか	11. 図書館資料論																											
2. 図書館の果たす役割	12. 図書館資料の種類																											
3. 情報の伝達と図書館	13. 資料の生産と流通																											
4. 社会、生涯学習と図書館	14. 資料の選択法																											
5. 図書館の構成要素	15. 資料選択論																											
6. 図書館の種類（館種）	16. 図書館の自由																											
7. 公共図書館：理念	17. 電子資料、電子情報																											
8. 公共図書館の歴史と現代	18. ネットワーク																											
9. 公共図書館の利用者	19. インターネット																											
10. 図書館の自由	20. 著作権																											
	21. 公貸権																											
	22. まとめ																											
<p>[成績評価の方法]</p> <p>テスト80% 課題 20%</p>	<p>[参考文献] 配布プリント</p>																											
<p>[教科書] 志保田務編著『図書館概論』（樹村房）</p>																												

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
現代思想		通 期	4 単位	岩津 洋二
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>私たちは人生の途上でさまざまな恐怖に遭遇する。地震を怖がり、お化けを怖がり、友達から嫌われるのを怖がる。すこしふりかえてみると、じつにさまざまな恐怖が私たちの生活につきまとい、恐怖ゆえに、私たちはしたいことを思い止まり、したくないことをあえておこなっている。しかし、私たちの行動の決定に深くかかわっている恐怖がどのようなものであるかについて正しく認識している人は少ない。</p> <p>この講義は、哲学のみならず、心理学・生理学・民族学・民俗学などの多様な視点から、恐怖を解剖し、その作業をとおして、恐怖にとらわれている自分を見つめなおし、恐怖から自分を解放し、より自由になるための手がかりをさぐるといった実践的な課題を追求する。恐怖という視点をとおして、世界と自身を再発見する試みといってもよい。</p>		<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. なぜ恐怖を問題とするのか</li> <li>2. 恐怖の諸相－恐怖の分類</li> <li>3. 近代社会における恐怖のとらえ方</li> <li>4. 恐怖の心理＝生理学</li> <li>5. 恐怖の過剰性</li> <li>6. 対人恐怖症と日本文化</li> <li>7. 恐怖としての和合</li> <li>8. 日本の伝統的恐怖対象</li> <li>9. 未開の恐怖と近代の恐怖</li> <li>10. 恐怖の利用</li> <li>11. 集合的恐怖</li> <li>12. 恐怖の愛好</li> <li>13. 恐怖への対処の仕方</li> </ol>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>何回かのレポートと学年末の試験による。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>授業中に指示する。</p>		
<p>[教科書]</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本近代思想史		通 期	4 単位	三 宅 正 彦
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>通常、近代とは明治～第二次大戦中まで、現代とは戦後～現在までを指す。この講義では日本近代の思想を日本の歴史的な位置付け、家、天皇制、アジア観などをポイントとして、問題史的に追究する。</p>		<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本の歴史的な位置付け(丸山真男『日本政治思想史研究』など)</li> <li>2. 家(柳田国男『先祖の話』など)</li> <li>3. 天皇制(美濃部達吉『憲法撮要』、上杉慎吉『憲法述義』など)</li> <li>4. アジア観(津田左右吉『シナ思想と日本』など)</li> </ol>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>期末試験(講義に欠かさず出席して内容の理解に努めていれば単位取得は容易。欠席が多ければ困難)</p>		<p>[参考文献]</p>		
<p>[教科書]</p> <p>資料を西配布する。ただし、西配布時に出席している人に1回限り交付する。そのとき欠席した人に対する追加西配布や持参することを忘れたい人に対する再西配布は行わない。毎時資料を参照しなければ講義の理解は困難になる。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
スポーツ文化論 (旧身体文化論)		通 期	4 単位	中 神 勝
<p><b>[講義概要・学習目標]</b></p> <p>2/世紀は、心の時代と云われ、心の中が豊かさが大切と云われる社会である。そして、人生80年時代の到来と共に生き抜いて行くためには、次の二つが重要と考えられる。</p> <p>一つは、活かに富み発進と生きていくことであり、他の一つは生き甲斐を捕って生き抜くことである。</p> <p>スポーツはこれら課題に充分に答え得るものであり、財産であり、文化である。本講義においては、スポーツの起源から今日までの歩みについての認識を深化すると、更に改めて人間とスポーツとの関係についての問い、その理想追求に向けて振興、発展を考える場としたい。新鮮な豊かな感性の積極的参加を大いに期待したい。</p>	<p><b>[講義計画]</b></p> <p>以下の項目に係り、進捗状況にあわせ時間割分し進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会の特徴</li> <li>2. スポーツとは、</li> <li>3. スポーツと人間および社会</li> <li>4. スポーツと健康(体力)</li> <li>5. スポーツとウェルネス</li> <li>6. 文化としてのスポーツその発展と創造</li> <li>7. スポーツ・フォー・オール</li> </ol>			
<p><b>[成績評価の方法]</b></p> <p>講義中進捗状況と併せ提出を求めるところレポートと定期試験などの結果とを総合的に検討し、評価する。</p>	<p><b>[参考文献]</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 広くスポーツに関する雑誌(学術)などで見聞する資料をプリント、スライドなどの形で随次配布、提示する。</li> <li>2. 教育、哲学、心理、生理、社会学などの専門書と体育学、健康学、社会学領域の物と併せ参考とし、且つに必要に応じてプリント、スライドなどを通し、提示し進める。</li> </ol>			
<p><b>[教科書]</b></p> <p>講義の進捗状況にあわせ随時、プリント、スライドなどで以て資料を提示し進める。従って特に教科書は免れない。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
比較文化論		通 期	4 単位	村 上 昌 孝
<p><b>[講義概要・学習目標]</b></p> <p>ある文化圏で生み出された文物が他の文化圏に伝えられる場合、それぞれの文化にふさわしいものに作り替えられるのが常である。異文化の受容と変形の問題を考える材料として、インド説話を取り上げる。インド説話は、仏教説話の漢訳を通じて日本に伝えられた。その一方、インドで制作された物語集がイスラム圏で翻訳され、ヨーロッパに伝えられることにより、これらの地域の説話・伝承に大きな影響を与えている。この講義では、インド説話が東西に伝播する際、どのような変化がなされたのかを学習することを目標とする。</p>	<p><b>[講義計画]</b></p> <p>インド説話に関する概説の後、まず、東方への伝播の具体例を検討していく。インド説話が仏教を説き明かすための例え話として取り入れられた際にも、仏教の教理に即した変化が施されているのはもちろんのことだが、これが中国・日本へと伝承されていく過程で、それぞれの文化に適合するように、更なる変化が施された。同系統の説話の、インド・中国・日本での伝承の違いを比較する。ついで、西方への伝播に関しても同様の検討を行うこととする。</p>			
<p><b>[成績評価の方法]</b></p> <p>平常点とレポートによる。</p>	<p><b>[参考文献]</b></p> <p>岩本裕『仏教説話の源流と展開』、東京、1978。</p>			
<p><b>[教科書]</b></p> <p>講義の際に資料を配布する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
部落問題論 (旧部落問題研究)		通 期	4単位	黒 田 伊 彦
<p><b>[講義概要・学習目標]</b></p> <p>部落解放運動の展開によって劣悪な生活実態は改善されつつある。だが未だに部落への差別の眼差しは解消されていない。解放教育や社会啓発が広く行われてきたが、差別事象は跡を絶たない。「なぜか？」部落への差別の基礎にある穢れ意識と天皇制の関係。それとの闘いを通じて部落解放の主体形成を跡づけ、部落解放理論の論争点を検討して、部落解放のあり方を考察する。</p> <p>映像資料を多く用いる、その時は簡単な感想文を課す。</p> <p>夏期休暇中に大阪人権博物館、奈良の水平社博物館、堺の軸松歴史資料館、岡山の洪染一揆資料館、福山人権平和資料館、三重人権センター、福岡県人権啓発センター等々各地の人権博物館の見学学習しその報告レポートを課す。</p> <p>これらの学習を通じて、部落問題を日本の歴史と文化の中に位置づけ、日本の歴史や文化の構造を逆照射する視点の確立を期したい。 更に部落低位性論、部落悲惨史論を克服し「人間は尊敬すべき存在である」という全国水平社宣言の思想の体得に努めたい。</p>		<p><b>[講義計画]</b></p> <p>I 部落差別と天皇制</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 穢れと世間体、戸籍制度と天皇制</li> <li>2. 西光万吉と皇座主義</li> <li>3. 神武天皇陵拡張と洞部落の強制移転</li> <li>4. 別府のヶ浜部落焼打事件と解放歌</li> <li>5. 福岡連隊爆破陰謀事件の真相と松本治一郎の闘い</li> <li>6. 全国水平社と侵略戦争－世界の水平運動</li> <li>7. 旧「満州」移民と来民開拓団の集団自決の悲劇</li> <li>8. 現代の天皇制と部落差別－聖と賤の対立意識</li> </ol> <p>II 狭山事件と部落問題</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 狭山事件の内容・性格と部落解放運動</li> <li>2. 狭山事件の模擬陪審裁判</li> </ol> <p>III 同和行政の歩みと街づくり</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オールロマンス事件と同和行政の全国化と変容</li> <li>2. 阪神・淡路大震災と被差別部落・自立と共生の街づくり</li> </ol> <p>IV 部落問題の論争について</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 部落の近世政治起源説批判をめぐって</li> <li>2. 部落民からの解放か部落民としての解放か －部落の共同幻想と部落民としてのアイデンティティ－</li> </ol>		
<p><b>[成績評価の方法]</b></p> <p>前・後期のテストとレポート及び出席点で総合的に評価する。 大阪人権博物館等、各地の人権博物館の見学学習レポートを課す。 出席を重んじる。</p>		<p><b>[参考文献]</b></p> <p>黒田 伊彦(著) 『部落問題学習16講』 (柘植書房新社)              八木 晃介(著) 『部落差別論』 (批評社)              藤田 敏一・師岡 佑行(編) 『部落史を読む』 (阿咩社)              キムチョンミ(著) 『水平運動史研究－民族差別批判－』 (現代企画室)              (金 静美)</p>		
<p><b>[教科書]</b></p> <p>黒田 伊彦(著) 『部落史紀行』 (柘植書房新社)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本社会史		通 期	4単位	生 瀬 克 己
<p><b>[講義概要・学習目標]</b></p> <p>私たちの祖先を具体的にたどらうのは、江戸時代の初期か戦国時代までがせいぜいである。けれども、江戸期における幕藩社会の成立は、わが国の歴史を考えるうえで、決定的に重要である。第一には、夫婦とその子どもという現代の家族とはほぼ変わらない形態で暮らしはじめるのもこの時代であるし、穀物の増産や防災のための治山治水(国土開発)がなされるのもこの時代である。</p> <p>このようにして、人びとの「豊かさ」をめざした努力のうえにたつて「近代社会」を迎えることになる。欧米列強からの圧力のなかでの「近代社会」をめざしての努力は、そこで暮らす民衆にとっては、どのようなものであったのか。結果としては、いわゆる「戦争の時代」へとつながってしまうのであるが、そのような時代における庶民生活に特徴的なところを考えていくことにしたい。</p>		<p><b>[講義計画]</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 国土利用の時代と庶民生活</li> <li>2) 近代社会の成立とその特質</li> <li>3) 工業化の過程と民衆</li> <li>4) 戦争の時代と傷痍軍人</li> <li>5) まとめ</li> </ol>		
<p><b>[成績評価の方法]</b></p> <p>学期末に実施する「論述式筆記試験(60%)」と、講義期間中に数回は実施する予定の「レポート(40%)」の合計点で評価する。</p>		<p><b>[参考文献]</b></p> <p>必要に応じて指定します。</p>		
<p><b>[教科書]</b></p> <p>待には指定しません。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
民俗学		通 期	4 単位	橋 内 武
<b>[講義概要・学習目標]</b> 民俗学は庶民が生活の中で伝承してきた文化を観察・記録する中から成立した学問である。その対象範囲は生活文化万般にわたるが、本講では、前期に人生儀礼・年中行事・俗信、後期に口承文芸（特に昔話）を取り上げる。これらの文化事象を扱いながら、民俗の見方を手に入れることができれば学習の目標が達成されたことになる。	<b>[講義計画]</b> <前期> 第1週～第2週 民俗学とは何か 第3週～第6週 人生儀礼（産育・婚姻・葬送） 第7週～第9週 年中行事（正月と盆を中心に） 第9週～第13週 俗信 <後期> 第1週～第2週 口承文芸（神話・伝説・昔話・世間話など） 第3週～第5週 昔話の分類（むかし語り、動物昔話、笑話、形式話） 第6週～第12週 昔話研究の方法（起源・歴史・構造・機能） 第13週 まとめ			
<b>[成績評価の方法]</b> 試験による。	<b>[参考文献]</b> 赤田光雄ほか編 『講座 日本の民俗学』 雄山閣。			
<b>[教科書]</b> 稲田浩二編 『日本の昔話』（上・下） 筑摩書房。（後期に用いる。）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
憲法		通 期	4 単位	前 田 徹 生
<b>[講義概要・学習目標]</b> Aさんは学校の方針に反して私服通学を続けていたことから、内申書の総合所見欄にどう書かれているのかが関心があった。公立高校への受験を控えたAさんはB市の個人情報保護条例に基づいて開示請求を求めたが、B市側はこれを拒否する決定を下した。Aさんは決定の取り消しを求めて裁判所に訴えた。さて、君が裁判長であつたら、どういう判断を下すだろうか。 憲法学（法学）を学ぶことの意義は「リーガル・マインド」を養うことにある。それはこうした対立する諸利益や価値とを比較衡量し、法に則りながら一定の結論を導き出す論理的思考能力を養うことにある。	<b>[講義計画]</b> 1) 憲法ガイダンス・憲法学とは？ 2) 日本国憲法成立史 3) 基本的人権の享有主体 4) 基本的人権の私人間効力 5) 法の下での平等 6) 個人の尊重と幸福追求権 7) 思想・良心の自由 8) 学問の自由 9) 信教の自由・政教分離の原則 10) 表現の自由 11) 職業選択の自由 12) 生存権 13) 被疑者・被告人の権利 14) 第九条の起源 15) 平和主義 16) 安保体制 17) 違憲審査制 18) 国会 19) 内閣 20) 裁判所 21) 地方自治			
<b>[成績評価の方法]</b> 前期・後期の2回の試験および時々の出席点で判断する。	<b>[参考文献]</b> 佐藤 功 『日本国憲法概説』（全訂第五版）学陽書房 樋口陽一 『憲法入門』勁草書房 芦部信喜 『憲法』岩波書店 佐藤幸治 『憲法』（第三版）青林書院			
<b>[教科書]</b> 粕谷友介・向井久了『青林法学双書/憲法』青林書院				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国際文化基礎研究（韓国・朝鮮文化） （旧 韓国・朝鮮文化研究Ⅱ）		通 期	4 単位	青 野 正 明
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>近年、日本と韓国との交流がさまざまな分野で盛んになってきた。そのため、現代韓国に関心をもつ人たちが急激に増えている。</p> <p>そのような状況を踏まえて、この授業では韓国・朝鮮文化一般を概説していく。具体的には、歴史・地理・宗教・言語・社会制度などの諸項目について、視覚資料の多い教科書を用いながら学ぶことになる。</p> <p>知識として知ること必要だが、異文化の特質を見だし理解するための視座や学問的技術も併せて修得することを目指す。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>歴史 地理 宗教 言語 社会制度 風俗 集落と住居 衣服 料理と酒 美術 音楽 日韓比較文化 北朝鮮事情 また、在日韓国・朝鮮人、日韓の歴史教科書問題、韓国での日本の大衆文化「開放」についても講義する予定である。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席状況、受講態度、期末試験を総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>必要に応じて授業中に紹介する。また、プリント類も配布する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>金両基監修『読んで旅する世界の歴史と文化・韓国』新潮社、1993年</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
文学概論		通 期	4 単位	和 栗 了
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>文学とは何かという問題に解答を出すために、文学作品をいかに読むべきかを、具体的に講義する。作者が自ら信ずる真理を読者に伝えるために最も効果的な表現手段を選択したとすれば、読者はその表現を読む技術を必要とする。作者が選択した最良の表現を、詳細に、正確に、そして想像力豊かに読む方法を受講生に伝える。</p> <p>次に、文学作品を読む技術を身に付けた読者に要求されるものは、読者自身である。読者としての我々ほどのような人間なのかを見たい。これが最終目標である。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>第1回目の授業で指示する。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>年2回のレポートによる。 出席も重視する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>第1回目の授業で指示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>第1回目の授業で指示する。</p>				



科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
比較文学		通 期	4 単位	赤 瀬 雅 子
<p><b>[講義概要・学習目標]</b>                      近年、わが国では比較文学研究がますます盛んになってきた。比較文学は今世紀のはじめ、フランスにおいて始まった学問である。そして1960年代にひとつの頂点に達したものである。                      この学問は文学研究の一方法であり、その意味では、例えばフランス文学研究等と同質のものであった。加えて同時代の外国文学の深い影響を考察するものであることが、厳守され、それに反する研究は比較文学とは見なされなかった。また古典の比較文学的研究も歓迎されなかった。                      このような多くの制約から自由になろうとして起こったのがアメリカを中心とした対比的研究方法である。この方法から派生した比較文学と平行して比較文化を考察しようとする方法は意外な成果を生み、わが国においても比較文学・比較文化の研究が主流となってきた。                      基本のアカデミックな比較文学の方法を紹介しながら、新しい対比研究の方法をも具体的に考察する。</p>	<p><b>[講義計画]</b>                      現在、わが国の多くの大学で比較文学の講義を担当している多くの研究者が大学生のために書き下ろした数編ないし十数編の論文に触れながら、比較文学・比較文化を学ぶ楽しさを引き出して行く。コスモポリタンなものの考え方をすることの大切さを常に意識したい。</p>			
<p><b>[成績評価の方法]</b>                      前期末に提出するレポートと、学年末の試験とのふたつが重要であるので、どちらも欠かないようにしていただきたい。出席率をよくすることも大切である。成績評価はそれらの総合によってなされるものである。</p>	<p><b>[参考文献]</b>                      富田仁・赤瀬雅子著『明治のフランス文学』（駿河台出版社）</p>			
<p><b>[教科書]</b>                      松村昌家編『比較文学を学ぶ人のために』（世界思想社）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
キリスト教史		通 期	4 単位	伊 藤 高 章
<p><b>[講義概要・学習目標]</b>                      ヨーロッパ宗教改革に対するカトリック側の反宗教改革運動の中で成立したイエズス会、及びイエズス会士フランシスコ・ザビエルの活動を手がかりに、近世のキリスト教の歴史を広く学ぶ。またこの時代の西ヨーロッパの国際関係、海外貿易、帝国主義的な進出にも言及し、教会の側からみた教会の歴史ではなく、人類の歴史におけるキリスト教の動きに注目する。                      キリスト教とアジア文化、特に日本の文化との接触の問題もとりあげる。</p>	<p><b>[講義計画]</b></p>			
<p><b>[成績評価の方法]</b>                      前期提出のブックレポート 2～3本                      夏期休暇中に作成する小論文                      後期授業における研究発表</p>	<p><b>[参考文献]</b>                      『聖フランシスコ・デ・ザビエル書翰抄』 上・下巻、                      (岩波文庫 青 818-1・2)</p>			
<p><b>[教科書]</b>                      フィリップ・レクリヴァン『イエズス会』（「知の再発見」双書 53）                      創元社 1996 年                      遠藤周作『沈黙』</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
聖書研究		通 期	4 単位	滝 澤 武 人
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>キリスト教の根本經典である『聖書』、特に「旧約聖書」をできるだけ多く読むことがこの講義の目標である。もちろん、大学という場においては、理性的・学問的な研究成果を土台とすることになるので、「信仰」の有無などは全く関係なく受講できる。</p> <p>いわゆる『聖書』には「旧約聖書」（39巻）と「新約聖書」（27巻）合計66巻のさまざまな時代のさまざまな文書が含まれている。それらは古代ユダヤ民族が残した人類全体にとって重要な知的遺産・世界の古典中の古典であり、今日においてもなお文学・美術・歴史・思想・宗教などに新鮮な光を投げかけている。教養としてぜひ『聖書』に親しんでもらいたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>前期に「創世記」「出エジプト記」、後期に「詩編」「ヨブ記」「イザヤ書」等を主として読み進める予定である。人数にもよるが、皆でテキストを読みあい感想を纏めてもらう。真面目な学生諸君のねばり強い努力に期待している。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>試験・レポート・出席・受講姿勢などを総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>AERA Mook 『旧約聖書がわかる。』（朝日新聞社）</p>			
<p>[教科書]</p> <p>新共同訳『聖書』（日本聖書協会）</p> <p>（授業時には必ず毎時間持参すること。）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
科学社会学 (旧自然科学概論)		通 期	4 単位	後 藤 邦 夫
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>かつて、科学の研究は少数の研究者の個人的活動によって担われていたが、ある時期から多様な社会システムの活動の所産となった。そのなかで、研究者の集団の性格や行動に注目し、知識社会学の手法による「科学者集団の社会学的研究」が始まった。これが狭義の科学社会学であり、いわゆる知識社会学の系譜に属する。しかし、19世紀末以来、国家や企業と科学技術との関連が重要になり科学者集団の性格も複雑になってきた。そして、科学技術の多様な社会的側面を扱う広義の科学社会学が成立する。この講義では「科学」と「技術」を一体のものとしてとらえ、ひろく「科学技術の社会的研究」として扱う。このような広義の科学社会学的研究の本格的な展開は、第二次大戦後、とくに1970年代以降である。核問題、環境問題等を通じて、科学技術の社会的意味が問われ、「科学的真理」や「技術進歩」に対しても根本的な検討が必要になったからである。それらの現代的トピックも出来るかぎり扱う。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>前期：科学社会学、すなわち科学技術の社会的研究の系譜と方法 1930年代のマートン、パナール、マルクーゼ、から今日の社会的構成主義にいたる研究の流れを追いながら、主な論点と方法を講義する。</p> <p>後期：現代の科学技術の科学社会学的研究 主に、第二次大戦後のさまざまな話題を扱う。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>1) 講義した内容についての試験を行う。 2) レポートを課し、その内容をも若干考慮する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>受講者に対するシラバスのなかで示す。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>使用しない。必要に応じてプリント等を配付する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
工学概論		通 期	4 単位	並 川 宏 彦
<p><b>【講義概要・学習目標】</b></p> <p>人間史、科学的な方法を用いて、近代科学の発展を振り返る。また、現代社会における技術の役割と今後の展望について、具体的な事例を挙げながら説明する。また、工学概論の意義と、各分野の発展と社会への貢献について、具体的な事例を挙げながら説明する。</p> <p>人間史、科学的な方法を用いて、近代科学の発展を振り返る。また、現代社会における技術の役割と今後の展望について、具体的な事例を挙げながら説明する。また、工学概論の意義と、各分野の発展と社会への貢献について、具体的な事例を挙げながら説明する。</p>		<p><b>【講義計画】</b></p> <p>I. 工学概論の意義と目的 II. 近代科学の発展と技術の役割 III. 現代社会における技術の役割と今後の展望 IV. 工学概論の意義と、各分野の発展と社会への貢献</p>		
<p><b>【成績評価の方法】</b></p> <p>レポートの提出を課す。後期末に試験をする。試験の点数とレポートの評価で成績をつける。</p>		<p><b>【参考文献】</b></p> <p>(1) 中村 治 編 「現代技術論」有斐閣 '73。(2) 石谷 清 著 「工学概論」コロナ社 '79。(3) 荒川 弘 著 「近代科学の成立」北大図書刊行会 '74。(4) 日本自動車工業会編 「日本自動車産業史」日本自動車工業会 '88。</p>		
<p><b>【教科書】</b></p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済数学		通 期	4 単位	安 藤 洋 美
<p><b>【講義概要・学習目標】</b></p> <p>経済学に数学が使われたのはとても古く、18世紀のダニエル・ベルヌイに遡る。その後、19世紀の中頃、クールノーによって『富の理論の数学的原理に関する研究』が出版されて以来、急速に経済学の諸概念を数学的に表現することが市民権を得た。この講義では、経済学の内容のいくつかを、日常言語でなく、数式で簡潔に表現すること、経済現象のモデルの表現と解析の手段として、数学を利用することを理解させたい。もっと端的に言えば、条件付き極値問題を説くことを主眼点において説明したい。教科書は使用しないので、よく講義を聴くこと。</p>		<p><b>【講義計画】</b></p> <p>&lt;前期&gt; 1変数の微分法（経済学に出てくるいろいろな関数とその限界量など） 多変数の微分法（生産の均衡、消費の均衡） &lt;後期&gt; 微分方程式（所得変動、成長理論など） 確率微分方程式（ブラウン運動と株価変動など）</p>		
<p><b>【成績評価の方法】</b></p> <p>前期と後期の最後の時間に試験をして評価する。</p>		<p><b>【参考文献】</b></p>		
<p><b>【教科書】</b></p> <p>教科書は使用せず、プリントを配布する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
産業技術論 (旧技術と生産過程)		通 期	4 単位	並 川 宏 彦
<b>[講義概要・学習目標]</b> 技術は人々の生活を豊かにし、社会の発展に貢献している。産業技術論は、産業技術の歴史、現状、未来について、総合的に理解することを目的とする。	<b>[講義計画]</b> 第一章 産業技術の概観 第二章 産業技術の歴史 第三章 産業技術の現状 第四章 産業技術の未来 第五章 産業技術の発展 第六章 産業技術の革新 第七章 産業技術の応用 第八章 産業技術の社会 第九章 産業技術の文化 第十章 産業技術の倫理			
<b>[成績評価の方法]</b> レポートの提出を課す。期末に試験をす。試験の点数とレポートの評価で成績をつける。	<b>[参考文献]</b> 最初の授業の日に、各章ごとの参考文献を示す。			
<b>[教科書]</b>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用II (旧電子計算機II)		前期集中	4 単位	藤 間 真
<b>[講義概要・学習目標]</b> 本講義の目的は、基本的なコンピュータ・リテラシーを修得しているものに対し、さらに高度なコンピュータ利用技術を伝授することにある。コンピュータ技術は、現在凄まじい勢いで進化し、変化している。よって本講義では、単純に現在何が出来るかを伝授するだけではなく、新しい技術に対応するための素養の伝授、計算機を使って自分は何をするのかということへの考察も行う。	<b>[講義計画]</b> ・ホームページを作ってみる。 ・プレゼンテーション・ソフト ・情報検索の基礎 ・unixの基礎 ・オブジェクト指向とJava			
<b>[成績評価の方法]</b> 学期末レポートを主に、平常成績を考慮し、総合的に評価する。	<b>[参考文献]</b> 進行状況に応じて指示する。			
<b>[教科書]</b>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
科学技術史 (旧科学史)		通 期	4 単位	鈴木善次
[講義概要・学習目標] 今日、私たちは科学文明の社会で生活している。科学文明は私たちに便利で、快適な生活をもたらしているが、その中心は科学技術である。科学技術とは科学的知識を活用して開発された技術である。その恩恵の源は科学というところになる。一方で科学技術は環境問題をも生じている。どうやって科学がよいのか、という論も出てくる。 本講義では、科学や科学技術を歴史的に眺めながら、その本質、特徴などを検討し、今後、私たちが人間がそれらとどうつきあうのが望ましいのかなどを学生諸君とともに考えていく。		[講義計画] 1. 科学というところ。 2. 科学の起源 古代科学というところ 3. 近代科学の誕生 ガリレイ、ニュートンの活動。 4. 科学啓蒙主義 5. 科学技術の誕生 動力技術の変遷。 6. 科学技術の発達と人びとの生活 7. 今日の環境問題と科学技術 8. 望ましい文明、科学文明の再考。		
[成績評価の方法] レポート、期末テストなど総合的に評価する。		[参考文献] 鈴木善次、島場 『科学技術概論』(理泉社)		
[教科書] なし				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
人間工学概論		通 期	4 単位	三戸 秀 樹
[講義概要・学習目標] 人間と機械のかかわりは古い。この人間と機械の関係から発生した人間工学に関する基礎的理解を深め、今後の人間と機械の関係のあり方について言及する。近年の機械系、とくにコンピュータリゼーションの進歩にともなう、人間らしい“人間-機械”の関係が実現しつつある反面、労働場面では、非人間的な“人間-機械”の関係が観察される。この非人間的側面は、かつて労働にあった「働きがい」をも失わせる要素を有しはじめている。さらに、一部では産業ストレス時代ともいわれ、真に人間中心の視点に基づいた人間工学導入が緊要である。 単なる既存知識の習得に主眼をおくのではなく、働く人々の個々のおかれている状況・状態にたえず疑問を発しながら、「どうしてそうなのか」「どうすれば良くなるのか」を、人間工学的に考える姿勢を重視する。人間を中心にした視点から人間工学の基本を学びとって欲しい。		[講義計画] <前 期> (1)はじめに 人間工学の定義、労働態様の変化、 (2)人間特性 生体次元、感覚入力系、覚醒水準、生体リズム、反応特性、性差、疲労、蓄積性疲労、 <後 期> (3)人間と機械 マン・マシン・インタフェース、頸肩腕障害、振動障害、VDT作業、テクノストレス、 (4)応用人間工学 立ち作業、障害者、二次的障害、高齢化、安全人間工学、交通科学、 (5)労働の快適化 労働の人間化、ゆとり、		
[成績評価の方法] テストとレポートを予定		[参考文献] 労働と健康の科学研究会(編)「労働と健康の科学」(労働経済社) 三戸秀樹ほか(著)「安全の行動科学」(学文社) 千田忠男ほか(著)「労働科学論入門」(北大路書房)		
[教科書] 横溝克己・小松原明哲(共著)「エンジニアのための人間工学(改訂)」(日本出版サービス)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
科学思想史		通期	4単位	松永 俊男
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>科学とキリスト教の関係について講義する。                      17世紀に成立した西洋近代科学は、神に由来する自然の秩序を見いだすことを目的にしていた。科学研究はキリスト教に奉仕するものだった。ところが、19世紀に科学と宗教の調和が崩れ、科学は宗教から分離していった。                      講義では、ガリレオ、ニュートン、あるいはダーウィンらの科学がキリスト教信仰と結びついていたことを明らかにし、それにもかかわらず、なぜ科学と宗教が対立すると思われているのかについて考察する。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>前期 1. 宇宙観の変遷                      2. コペルニクスの信仰と科学                      3. ガリレオの信仰と科学                      4. ニュートンの信仰と科学                      5. イギリス自然神学の成立</p> <p>後期 1. ビクトリア朝の信仰と科学                      2. 化石の変遷の解釈と教会                      3. 進化論とキリスト教                      4. 科学と宗教の闘争史観の成立                      5. 科学と宗教の闘争史観の否定</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>原則として、毎回の授業の最後に小テストを実施する。これが一定の水準に達しなければ、出席率が良くても不合格とする。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>松永俊男（著）『ダーウィンの時代－科学と宗教』（名古屋大学出版会）</p>			
<p>[教科書]</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー フ
総合講座Ⅰ（一神教の系譜） （旧総合講座Ⅳ――一神教の系譜）		前 期	2単位	滝澤 武 人
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>古代の西アジア（いわゆる中近東）の砂漠的な風土の中から、いくつかの世界的な大宗教が成立した。ゾロアスター教、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教という四つの一神教の宗教がそれである。いずれも日本においては余りなじみのない宗教であろうが、今もおおさまぎまな形で世界中の人々に意識的にせよ無意識的にせよきわめて大きな影響を与え続けている。                      この総合講座においては、それぞれの宗教の専門家である四人の研究者が、それぞれの宗教に関する最低限の教養としてのコンパクトな知識を授けることを目標としている。各宗教の創始者・教典・歴史・現代的意義などをできるだけ簡潔に紹介する。古代世界の宗教に関心を有する真面目な学生諸君の熱心で積極的な受講を期待している。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>次のような順番で講義する予定である。</p> <p>ゾロアスター教（森茂男先生） 3回                      ユダヤ教（古畑正富先生） 3回                      イスラム教（嶋本隆光先生） 3回                      キリスト教（滝澤武人先生） 3回</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>試験、出席、レポートなどを総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>担当者が必要に応じてその都度指定する。</p>			
<p>[教科書]</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー プ
総合講座Ⅰ（泉州の今昔Ⅱ）		後 期	2 単 位	深 澤 徹
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>泉州の今昔Ⅱは「産業社会」篇である。桃山学院大学の立地する泉州地区に関して、その産業と社会を概観する。なお総合講座であるので、毎回講師が変わり、それぞれのフィールドに基づいて講義がなされる。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>講義の最初に講師の顔ぶれと講義内容についての予定表を配布する。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>毎回出席を取るなのでその出席状況、及び学年末に試験を行い、総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>特に定めない。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー プ																		
総合講座Ⅰ ITの活用の実際		前 期	2 単 位	藤 間 真																		
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>本年始におけるY2K問題を見てもわかるように、IT(Information Technology)は私たちの社会に深く根付いている。 本講義では、各業種で第一線でITを活用している現場の皆さんに来ていただき、最先端の企業の活用状況を話していただく。 内容的には、コンピュータと情報通信、特にWEBコンピューティングが中心となる。 また、余裕があればどのような人材がIT技術の現場に必要なのか、大学でどのような勉強をすることを企業側が望むのかについてもお話いただけるようお願いしている。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>1回目にオリエンテーション及び基礎知識の講義を行う。講義に関する詳細もそこで提示するので、出席した上で履修するかどうかを決められたい。 2回目以降に予定している内容は下記のとおりである。(順不同)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>招聘元企業</th> <th>予定題目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CSK</td> <td>「CSKにおけるECの推進」</td> </tr> <tr> <td>武田薬品工業</td> <td>「SAPを使った経営情報の構築」</td> </tr> <tr> <td>鐘淵化学工業</td> <td>「基幹業務のアウトソーシング」</td> </tr> <tr> <td>ニフティ</td> <td>「プロバイダーの現状」</td> </tr> <tr> <td>クボタ</td> <td>「技術部門における技術情報の処理」</td> </tr> <tr> <td>NEC</td> <td>「コンピュータ教育について」</td> </tr> <tr> <td>松下電器</td> <td>「SCMの資材受発注」</td> </tr> <tr> <td>大阪瓦斯</td> <td>「公的インフラから見たY2K」</td> </tr> </tbody> </table> <p>尚、本学からは経営学部の井上教授と藤間がそれぞれ講義を行う。</p>				招聘元企業	予定題目	CSK	「CSKにおけるECの推進」	武田薬品工業	「SAPを使った経営情報の構築」	鐘淵化学工業	「基幹業務のアウトソーシング」	ニフティ	「プロバイダーの現状」	クボタ	「技術部門における技術情報の処理」	NEC	「コンピュータ教育について」	松下電器	「SCMの資材受発注」	大阪瓦斯	「公的インフラから見たY2K」
招聘元企業	予定題目																					
CSK	「CSKにおけるECの推進」																					
武田薬品工業	「SAPを使った経営情報の構築」																					
鐘淵化学工業	「基幹業務のアウトソーシング」																					
ニフティ	「プロバイダーの現状」																					
クボタ	「技術部門における技術情報の処理」																					
NEC	「コンピュータ教育について」																					
松下電器	「SCMの資材受発注」																					
大阪瓦斯	「公的インフラから見たY2K」																					
<p>[成績評価の方法]</p> <p>毎回の出席・受講態度を中心に総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>講義中に指示する。</p>																					
<p>[教科書]</p>																						

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー プ
総合講座Ⅱ (地域の歴史と文化財保存)		通 期	4 単位	佐賀 朝
<b>[講義概要・学習目標]</b> 先行きの見えない状況の現代において、未来に向けた選択を行うにあたり、われわれがまず振り返るのは過去の事実である。われわれは過去のさまざまな歴史、とりわけ、われわれが日常生活を送っている身近な地域の歴史から何を学ぶことができるだろうか。本講義では、歴史学の分野における地域史研究と、それが対象としてきた地域の多様な文化遺産について学び、地域の歴史を学ぶことの現代的意義、あるいは歴史学という学問の社会的役割などについて考えたい。その際、具体的には、 ①われわれが日々暮らし、働き、そして学んでいる地域には、その歴史を知ることのできる史料＝文化財がどのような形で存在しているのか ②地域に残された様々な文化財＝史料から、学問的方法を通じてどのような地域の歴史を明らかにできるのか ③地域の文化財保存は、これまでどのように取り組まれてきたのか、また現在どのような状況にあるのか 以上の三つを柱に、各時代・各分野で地域史の研究や史料保存に携わっている専門家を何人が招き、リレー講義の形で論じる。講義のなかで取り上げる具体的な地域としては、大学のある和泉地域をはじめ、近畿地方を中心とする。	<b>[講義計画]</b> (前期) 文化財保存各論 考古学における資料／埋蔵文化財の調査／文化財保存運動 中世荘園の世界／絵図から読みとる荘園世界／荘園景観の保存 阪神淡路大震災と文化財保存／住民参加の自治体史 現代の資料を未来に残す／地域文書館の活動 ほか (後期) 和泉市の地域史と文化財 池上・曾根遺跡／和泉地域の古代史 自治体史編纂と史料保存／史料調査とは何か 江戸時代の村の古文書／村の生活と社会 近代化のなかの和泉地域／聞き取りとフィールドワーク ほか			
<b>[成績評価の方法]</b> 出席、各講師による小テスト・レポートなどを総合的に評価する。	<b>[参考文献]</b> 講義のなかで各講師が随時、提示する。			
<b>[教科書]</b> 各講師がプリント等を配付する。	<b>◆注意事項◆</b> 1999年度の総合講座Ⅰ地域の歴史と文化財保存Ⅰ(前期)と同Ⅱ(後期)のいずれかをすでに受講した者は、内容に重複があるため、原則として本講義を受講することは避けるように。			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー プ
総合講座Ⅱ－核の時代		通 期	4 単位	後 藤 邦 夫
<b>[講義概要・学習目標]</b> 20世紀の100年を振り返るとき、二つの世界大戦と40年以上も続いた「米ソの冷戦」がもっとも印象的である。そして、世紀の後半の世界にもっとも影響を与えたのは核兵器の存在である。実は世紀の初め、1900年前後に、放射能の発見、ラジウムの発見があり、原子核研究の第一歩が始まったのである。その意味では、20世紀を「核の世紀」あるいは「核の時代」と呼ぶことが出来るだろう。しかもそのなかで、日本は核兵器が実戦で投下されて多数の犠牲者を出したという特別な位置を占めている。この総合講座では、「核」という特別な問題を通して20世紀という時代を見つめ直してみることしよう。科学的真理と文明の進歩を追及する中で、人類は大変な問題を背負い込んだ。今年2000年。この歴史を考えるのにふさわしい年である。	<b>[講義計画]</b> 以下のテーマをそれぞれの担当者が連携しつつ講ずる。 (1) 原子核と核反応について。 (2) ナチス体制と第2次世界大戦 (3) マンハッタン計画と日本への原爆投下 (4) 冷戦下の核軍拡競争 (5) 核の商業利用 (6) 冷戦の終結と地域紛争・核拡散の危機 (7) 日本の核問題：原子力発電、「もんじゅ」、「臨界事故」			
<b>[成績評価の方法]</b> 期末のテストの結果が中心であるが、各時間ごとにレポートを課し、あわせて評価する。	<b>[参考文献]</b> 多くの良書がある。講義に際して各担当者から示される。			
<b>[教科書]</b> 使用しない。必要に応じプリント等を配付する。				



科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー プ
総合講座Ⅱ (多文化共生社会)		通 期	4 単位	遠 山 淳
<p><b>[講義概要・学習目標]</b></p> <p>20世紀は国家という概念の普及とともに、民族の生存をかけて激動した。民族の統合と分化の世紀でもあった。その鍵概念は民族と文化。</p> <p>本講座では、世界に存在する多文化社会を知り、現在の日本が、例外的に単一文化的要素が極めて濃い、むしろ少数派国家であることを学ぶ。</p> <p>また、国家の形成と民族関係、文化の形成についても講じるが、世界の中から、いくつかの国家・社会を選び、それらの地域における多民族・多文化と共生の現状と展望について考察する。21世紀における多文化共生社会の有り様を、日本と世界に求め、また、民族紛争と調停機関である国連や国際機構の機能と展望についても講じる。</p>	<p><b>[講義計画]</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに：現代世界の現状と展望（順不同）</li> <li>2. 国連および国際機構の機能と展望</li> <li>3. アングロサクソン世界～各論研究：英国の場合</li> <li>4. 各論研究：アメリカ合衆国の場合</li> <li>5. 各論研究：カナダの場合</li> <li>6. 各論研究：オーストラリアの場合</li> <li>7. 各論研究：中南米の場合</li> <li>8. 各論研究：中国の場合</li> <li>9. 各論研究：台湾の場合</li> <li>10. 多文化共生社会への道：日本の場合～はじめに</li> <li>11. 各論研究：定住外国人問題と地方参政権運動</li> <li>12. 各論研究：外国人教員任用運動と国公立大学教員に関する実態調査</li> </ol>			
<p><b>[成績評価の方法]</b></p> <p>各講義後に行う「まとめ」、「クイズ」により総合的に評価する。</p>	<p><b>[参考文献]</b></p> <p>授業中に紹介する。</p>			
<p><b>[教科書]</b></p> <p>授業中に指定する。</p>				







科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
スポーツ文化論 (旧身体文化論)		通 期	4 単位	中 神 勝
<b>[講義概要・学習目標]</b> 2/世紀は、心の時代と云われ、心の中より・豊かさを大切にする社会である。そして、人生80年時代の健康やかに生き抜いて行くためには、次の二つが重要と考えられる。 一つは、活かに富み発現し生きていくことであり、他の一つは生き甲斐を補って生き抜くことである。 スポーツはこれから課題に充分に答え得るものであり、既産であり、文化である。本講義においては、スポーツの起源から今日の歩みについでこの認識を深化すること、そして改めて人間とスポーツとの関係について関心、その理想追求に向けての振興、発展を考える場として、新鮮な豊かな感性の積極的参加を大いに期待したい。	<b>[講義計画]</b> 以下の項目に添った進捗状況にあわせて時間都合し進める。 1. 現代社会の特徴 2. スポーツとは、 3. スポーツと人間および社会 4. スポーツと健康(体力) 5. スポーツとウェルネス 6. 文化としてのスポーツの発展と創造 7. スポーツ・フォー・オール			
<b>[成績評価の方法]</b> 講義中進捗状況と併せて提出を求めるレポートワークと定期試験などの結果とを総合的に検討し、評価をする。	<b>[参考文献]</b> 1. 広くスポーツに関する雑誌(学術)などで見聞する資料をプリント、スライドなどの形で随次配布、提示する。 2. 教育、哲学、心理、生理、社会学などの専門書と体育学、健康学、社会学領域の物と併せて参考とし、時に応じて、必要に応じてプリント、スライドなどを通し、提示し進める。			
<b>[教科書]</b> 講義の進捗状況にあわせて随時、プリント、スライドなどで以て資料を提示し進める。従って特に教科書と免れない。				



科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用II (旧電子計算機II)		前期集中	4単位	藤間 真
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>本講義の目的は、基本的なコンピュータ・リテラシーを修得しているものに対し、さらに高度なコンピュータ利用技術を伝授することにある。コンピュータ技術は、現在凄まじい勢いで進化し、変化している。よって本講義では、単純に現在何が出来るかを伝授するだけではなく、新しい技術に対応するための素養の伝授、計算機を使って自分は何をするのかということへの考察も行う。</p> <p>履修登録に際しては、下記の点を理解した上で登録されたい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な計画は右欄の通りであるが、コンピュータの世界の変化と実習の進展の状態に応じて変更することもありうる。</li> <li>・計算機センターの施設を用いた実習が主体となる。</li> <li>・初心者に対するコンピュータリテラシーの伝授を目的とはしていない。コンピュータの経験を持たないものにとってはハードな講義となる。</li> <li>・実習主体の講義であり、自習も必要となる。</li> <li>・基本的には連絡は電子メールで行う。</li> </ul>	<p>[講義計画]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページを作ってみる。</li> <li>・プレゼンテーション・ソフト</li> <li>・情報検索の基礎</li> <li>・unixの基礎</li> <li>・オブジェクト指向とJava</li> </ul>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学期末レポートを主に、平常成績を考慮し、総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>進行状況に応じて指示する。</p>			
<p>[教科書]</p>				





科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
聖書研究		通 期	4単位	滝 澤 武 人
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>キリスト教の根本経典である『聖書』、特に「旧約聖書」をできるだけ多く読むことがこの講義の目標である。もちろん、大学という場においては、理性的・学問的な研究成果を土台とすることになるので、「信仰」の有無などは全く関係なく受講できる。</p> <p>いわゆる『聖書』には「旧約聖書」（39巻）と「新約聖書」（27巻）合計66巻のさまざまな時代のさまざまな文書が含まれている。それらは古代ユダヤ民族が残した人類全体にとって重要な知的遺産・世界の古典中の古典であり、今日においてもなお文学・美術・歴史・思想・宗教などに新鮮な光を投げかけている。教養としてぜひ『聖書』に親しんでもらいたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>前期に「創世記」「出エジプト記」、後期に「詩編」「ヨブ記」「イザヤ書」等を主として読み進める予定である。人数にもよるが、皆でテキストを読みあい感想を纏めてもらう。真面目な学生諸君のねばり強い努力に期待している。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>試験・レポート・出席・受講姿勢などを総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>AERA Mook 『旧約聖書がわかる。』（朝日新聞社）</p>			
<p>[教科書]</p> <p>新共同訳『聖書』（日本聖書協会）</p> <p>（授業時には必ず毎時間持参すること。）</p>				



科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
教育哲学		後 期	2単位	徳 永 正 直
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>ドイツの代表的な教育哲学者であるボルノーの思想を中心にして次のような問題を解説したい。①実存哲学と教育学との関係を考察した際に提示された「教育の非連続的形式」、② 哲学的人間学の方法と、言語の人間学的意義、対話による対話への教育の今日的意義、③教育者の課題などについて、ボルノー教育学を通じて、教育哲学の基本的な問題の理解を目指す。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>§ 1. 教育哲学とは何か？</p> <p>§ 2. 実存哲学と教育学</p> <p>①実存哲学的な人間把握</p> <p>②実存に対応する「教育の非連続的形式」としての危機、出会い、訓戒などの人間形成論的意義</p> <p>③教育の連続的形式としての「練習」ないし「修練」の意義</p> <p>§ 3. 言語の人間学的意義</p> <p>①言語による世界把握</p> <p>②言語による自己理解</p> <p>③言語の危険性</p> <p>④言語によるコミュニケーションの諸形式</p> <p>⑤対話による対話への教育</p> <p>§ 4. 教育者の課題</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>レポート作品と平常点によって評価する。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>講義の中でその都度指示する。</p>		
<p>[教科書]</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
教育史		後 期	2単位	岡 本 洋 之
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>教育史とは、文字通り教育の歴史である。しかし「歴史」といわれると暗記ばかりで苦痛なもの、難しい人名や地名ばかりで無味乾燥なものというイメージが付きまとう。多くの小・中・高校での誤った歴史教育がそのようなイメージをつくりあげてしまったのは残念である。</p> <p>本授業では、教育の通史は扱わない（通史を学びたい人には、[参考文献]欄に示した山住書が面白く読めるのでそれを薦める）。その代わり、「教育」の関わる範囲を学校教育や社会教育だけではなく、子どもの遊び、子育て、大人と子どもの関係、海外留学など、広くとらえることにし、みなさんが日ごろ読んでいる本の中に教育史に関わる題材があふれていることを知ってもらう。こうして少しでも教育史に親しんでもらうことが、本授業の目標である。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>まず、左欄で述べた「教育」の関わる範囲を広くとらえるとはどういうことかを、教科書を見ながら確認する。</p> <p>そのうえで、受講生は日ごろ読んでいる本の中から、教育史的内容を含むものを1冊以上選び、その内容を紹介する報告書（1冊につきB5サイズ1枚）を提出する。</p> <p>こうして報告された本に関して、立候補（または指名）により決められた発表者が、本の中の教育史的内容と感想を順次口頭発表する。</p> <p>時間の関係で発表できなかった者は、同様の内容のレポートを提出する。</p> <p>★題材として取り上げる本の例……妹尾河童『少年H』、さくらももこ『まる子だった』、黒柳徹子『窓際のトットちゃん』、司馬遼太郎『竜馬がゆく』、ヘルマン・ヘッセ『車輪の下』、サンテグジュペリ『星の王子さま』、ほか。</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>提出物の内容のほか、授業中の発表またはレポートによる。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>山住正巳『日本教育小史』（岩波新書）</p>		
<p>[教科書]</p> <p>石附実『教育博物館と明治の子ども』（福村出版）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
教 育 社 会 学		通 期	4 単位	宮 崎 和 夫
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>教育社会学は、教育と社会の関係を社会学の方法で研究する科学である。教育の問題は、今や学校のみならず家庭や地域社会など広範囲で大きな社会問題になっていることが多い。</p> <p>本講義では、現代社会の特質からくる教育の諸問題を積極的に取り扱う。たとえば、2歳児の殺人事件にまでなった「お受験」をはじめ学歴社会問題、受験戦争問題、家庭や地域社会の教育力の低下問題等と非行や逸脱行為、少年犯罪との関連、いじめや不登校問題、若者文化と流行、マンガ文化やT.V文化の教育への影響問題などいろいろな教育問題と学校組織の構造的な問題点との関連を具体的かつ多面的に考察する。</p> <p>その中で、教育と現代社会の特質との関連を分析する社会学的視点を論究するとともに、現代教育が抱えている諸問題を実証科学的に分析し考察する。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>〈前期〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会の特質と教育</li> <li>2. 情報化社会と教育</li> <li>3. 国際化社会と教育</li> <li>4. 少子高齢社会と教育</li> <li>5. 学歴社会と教育</li> <li>6. 管理社会と教育</li> <li>7. 学習社会と生涯教育</li> </ol> <p>〈後期〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>8. 人権問題と教育</li> <li>9. 学力保障と教育機会</li> <li>10. ジェンダーと教育</li> <li>11. 社会階層と教育</li> <li>12. 学校の官僚制と教師集団</li> <li>13. 社会変動と教育改革</li> </ol>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学年末試験の成績と年間回数提出してもらったミニレポートなどを総合して評価する。</p>		<p>[参考文献]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 宮崎和夫（編著）「生徒指導の理論と実践」（学文社）</li> <li>2. 宮崎和夫（編著）「新現代教育原理」（学文社）</li> <li>3. 麻生 誠他著「学校の社会学」（学文社）</li> </ol>		
<p>[教科書]</p> <p>宮崎和夫（編著）「現代社会と教育の視点」（ミネルヴァ書房）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
教 育 行 政 学		後 期	2 単位	金 子 勉
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>教育行政は「包括的な権力団体としての国家または地方公共団体が、教育政策を定立し、公的承認を受けながら、それを現実化する作用・行為」と定義される。現実の社会において、公教育の実施を保障する教育行政の役割と責任は重大である。</p> <p>教育行政が行政の一分野であることはいままでもなく、それゆえ教育行政には規制作用が伴う。しかし、教育行政の特徴は、教育条件の整備という、助成作用が、その主要部分を占めるところにある。人間形成を通じて社会の発展を支援することは、教育行政の責務である。</p> <p>講義では、まず、教育行政を特徴づける基本原理として「法律主義」、「地方自治」、「教育の自主性・専門性の尊重」をとりあげ、伝統的な学説と現状について講述する。次に、いくつかの教育政策に関する立案・実施過程をとりあげて、教育行政の個別領域における理論と実際の諸相を、具体的に解説する。そして、急激に変化する社会において、教育行政に期待される役割について、理解を深めることとしたい。</p>		<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 教育行政の概念</li> <li>2 教育行政における法律主義</li> <li>3 教育行政における地方自治</li> <li>4 教育の自主性・専門性の尊重</li> <li>5 中央教育行政の組織</li> <li>6 地方教育行政の組織</li> <li>7 教育行政と学校経営</li> <li>8 教育財政</li> <li>9 私学行政</li> <li>10 教育政策と審議会</li> <li>11 諸外国の教育行政</li> </ol>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>レポートおよび学期末試験による。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>市川昭午『教育行政の理論と構造』教育開発研究所 市川昭午『臨教審以後の教育政策』教育開発研究所 黒崎 勲『教育行政学』岩波書店 平原春好『教育行政学』東京大学出版会 村山英雄・高木英明編『教育行政提要』ぎょうせい 文部省『我が国の文教施策』大蔵省印刷局</p>		
<p>[教科書]</p> <p>使用しない。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
教育法規		前期	2単位	金子 勉
[講義概要・学習目標] 元来、教育は私事であり、国家の関与を前提とするものではなかった。しかし、近代公教育制度の成立以後は、学校教育の重要性が明白になり、国家的な関心が高まった。 国家が教育に関与するとき、その在り方は助成的で、また、規制的存在である。例えば、義務教育を実施するために、制度的・財政的な支援が行われる。しかし、その反面、義務教育に関する、さまざまな規制が存在するもの事実である。 そのような国家と教育の関係は、教育法規によって規律される。それは、憲法や法律のほか、各種の命令から成り立ち、きわめて複雑な体系を形成している。そこで、この講義では、教育法規のなかから、特に重要なものを取り上げ、その内容と解釈について、講説する。 なお、最近では、社会の急激な変化に対応するために、教育法規の改正が頻繁である。そこで、「今、教育に何が起きているのか」を問いながら、生きた教育法規の理解を目標として授業をおこなう。	[講義計画] 1 教育法規の体系と種類 2 憲法・教育基本法 3 学校教育法 4 学校設置基準・標準法 5 学習指導要領・教科用図書 6 文部科学省設置法 7 地方教育行政の組織及び運営に関する法律 8 私立学校法 9 国家公務員法、地方公務員法、教育公務員特例法 10 教育職員免許法 11 社会教育法			
[成績評価の方法] レポートおよび学期末試験による。		[参考文献] 解説教育六法編修委員会『解説教育六法』三省堂 中央教育審議会「今後の地方教育行政の在り方について」（答申）		
[教科書] 使用しない。		菱村幸彦『やさしい教育法の読み方』教育開発研究所 鈴木勲編著『逐条学校教育法』（第4次改訂版）学陽書房 木田宏『第二次新訂逐条解説地方教育行政の組織及び運営に関する法律』第一法規 宗像誠也『教育と教育政策』岩波書店 兼子仁『国民の教育権』岩波書店		

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本史	01	通 期	4 単位	三 宅 正 彦
[講義概要・学習目標] 古代から現代にいたる日本の歴史を身分制度の展開を中心に追究する。原資料の読解をもとづいて講義を展開する。		[講義計画] 1. 古代律令制国家・王朝国家 2. 中世荘園制国家 3. 近世幕藩制国家 4. 近代天皇制国家 5. 現代民主制国家		
[成績評価の方法] 期末試験。(講義に欠かさず出席して内容の理解に努めていれば単位取得は容易。欠席が多ければ困難)		[参考文献]		
[教科書] 資料を配布する。ただし、配布時に出席している人に1回限りで交付する。そのとき欠席した人に対する追加配布や持参することを忘れた人に対する再配布は行わない。毎時資料を参照しなければ講義の理解は困難になる。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本史	02	通 期	4 単位	横 井 清
<b>【講義概要・学習目標】</b> 原始・古代から近代に到るまでの日本史上の重要事件・人物などに焦点を絞りつつ、分かりやすく解説して、主として将来、歴史を教える側に立とうとしている諸君が、先ずは自分自身が日本の歴史を学ぶ楽しさ、意義深さに開眼するように取り運んで行きたいと思う。	<b>【講義計画】</b> 先ず、「歴史の時代区分」についての解説を丁寧に行い、しかるのちに、時代順に「事件」や「人物」を逐って行く。 原則的に毎時間の主題は異なるが、予め提示はせず、科目の性質上基本的に重視されるべき問題点をベースにしながらも、時々話題性ある政治・社会・文化の諸問題にも注目して、主題を設定して行く。			
<b>【成績評価の方法】</b> 学年末の筆記試験による。	<b>【参考文献】</b> 各主題に応じた内容の資料プリントを、そのつど配付する。 参考とすべき図書などについては、必要に応じて随時授業の中で紹介する。			
<b>【教科書】</b>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国史	01	通 期	4 単位	坂 昌 樹
<b>【講義概要・学習目標】</b> 社会科教育をする上で必要なものの考え方に、重点を置いた授業をします。過去と現在をさまざまな視点から比較し、歴史をいかに学ぶべきか、また歴史からなにを学べるか一緒に考えていきたいと思います。 授業では高校用教科書を使つての模擬授業（前期）や、ビデオを見て感想文を提出していただき、それにもとづいた議論をおこないます（後期）。これらへ積極的に参加し、みなさん自身がこの授業を作り上げてください。 学ぶテーマとしては西洋の近・現代史をおもな対象とし、近代化の歪み（ファシズム、排他的民族主義など）や現代社会の諸問題（外国人労働者など）、さらに歴史教育上の諸問題（教科書問題など）を予定しています。しばしば現代の問題にも言及しますが、そうした問題の歴史的背景の透視や、歴史的に類似の問題の検討ができればよいと考えています。	<b>【講義計画】</b> I. 導入：歴史教育について II. 教育実習に向けて 1. 模擬授業 . 高校『世界史』の教科書とその教育方法の検討 III. 過去から現在への歴史的連続性を考える（ビデオを利用） 1. 社会的マイナリティーの歴史 ユダヤ人、移民、難民、外国人労働者 2. 援助の歴史 戦後補償と経済援助 IV. 歴史教育を考える（ビデオを利用） 1. 歴史教科書と歴史観の問題			
<b>【成績評価の方法】</b> 授業への積極的参加（模擬授業やビデオ感想文の提出）と学年末試験（受講者が少数ならレポート）などにより総合的に評価する。	<b>【参考文献】</b> 『詳説 世界史』（高校用世界史教科書B）山川出版社			
<b>【教科書】</b> 指定しない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
外国史	02	通 期	4 単位	山 崎 充 彦
<b>[講義概要・学習目標]</b> 「歴史」の捉え方、教え方ほど難しいものはない。諸君たちのなかには、あるいは歴史とは単なる年号の羅列であると考え、歴史学習とは、年号と歴史的事件を暗記すればよいと思っている人がいるかも知れない。だが、歴史は年号の羅列ではないし、歴史研究・歴史学習とは決して暗記だけでこつと足るものでもない。諸君らが、「歴史的事実」と確信していることであっても、その評価や位置づけは時代や人によって様々に変わることも稀ではない。 この講義では、まず、担当者が、歴史的なものの見方とは何かについて述べ、歴史の研究・解釈が研究する者の立場に依拠する事例を挙げて、「歴史研究の持つ危うさ」を指摘するところから始める。	<b>[講義計画]</b> この講義は、教職科目でもあり、将来、社会科教師として実際に教壇に立つことを目指す人を念頭において、進めてゆく。 ・担当者の講義 1、歴史研究の持つ問題性 2、ヨーロッパ中心史観の問題性 3、現代史をどう解釈するか。 ・模擬授業の実施 担当者の講義のみならず、受講生の模擬授業を積極的に取り入れる。とりわけ、4回生諸君は教育実習を控えているわけであるから、まず4回生から模擬授業を行ってもらおう。 ・ビデオ上映 現代史と歴史学習に関するビデオを観てそれに関するレポートを提出してもらおう。			
<b>[成績評価の方法]</b> 学年末試験及び模擬授業やビデオに関するレポートなどで総合的に判断する。	<b>[参考文献]</b> 参考文献は授業中に随時紹介するが、さしあたり、以下の文献を挙げておく。 ・栗原 優、『ナチズムとユダヤ人絶滅政策 -ホロコウの起源と実態』ミネルヴァ書房 ・西岡昌紀、『アウシュウツ「ガス室」の真実』、日新報道 ・ハーバーマス、ノルテ他著、『過ぎ去ろうとしない過去 ナチズムとドイツ歴史家論争』、人文書院			
<b>[教科書]</b> 使用しない				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
倫理学		通 期	4 単位	木 下 昌 巳
<b>[講義概要・学習目標]</b> 「生命倫理」をテーマとして講義をおこなう。 「生命倫理」とは、倫理学のなかでは比較的新しく生まれた一分野であり、安楽死、臓器移植、人口妊娠中絶、クローン人間の作成など、従来の医療行為のなかでは禁止されていた行為の許容基準を明らかにする目的でつくられた学問である。医学の技術の進歩は、人間の死とは脳の死なのか、心臓の死なのか？自分の遺体についての決定権をもつのは自分なのか、家族なのか？クローン人間の製造は許されるのか？などといった、これまではなかったような新たな種類の倫理的な問いをわれわれに突き付けることになった。これらの問いに答えようとするとき、われわれは、これまで日常生活のなかで疑わずにいたさまざまな価値の意味をあらためて問うことになる。本講義では、これらの問題の複雑な論点を整理し、解決の方向性を探っていくことにする。	<b>[講義計画]</b> 前期は生命倫理固有の問題に焦点を絞り、インフォーム・コンセント、臓器移植、脳死、クローン人間といったテーマを個別に論じていく。後期では、前期の内容を前提としてその背後にある倫理学の根源的な問題を概観・検討する予定である。			
<b>[成績評価の方法]</b> 学期末試験 80点 授業中に提出するエッセイ（3回程度実施する予定） 20点 以上の100点満点で評価する。	<b>[参考文献]</b> 加藤尚武『脳死・クローン・遺伝子治療——バイオエシックスの練習問題』（P HP新書）			
<b>[教科書]</b> とくに指定しない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
職業指導		通 期	4 単位	松 原 勇
<b>[講義概要・学習目標]</b> 産業社会で働く職業人は、グローバル・スタンダードの識見とエネルギーに満ちた豊かな人間力を磨くことが大切である。 現代の産業社会が強く要請している職業人は、高い志しを持ち、優れた職業倫理を身につけ「自覚・責任」を持つて職務に情熱を傾け、自己の魅力ある知性と感性を磨き、持てる能力を最大限に発揮できるように知識・技術の習得が求められる。 本講では、その趣旨を踏まえ、産業社会に対応できる職業意識の高揚を目指し、職業観を明確にして職業能力の適性を伸長させ、職業指導の重点的な本筋を究明して講義する。 併せて、就職活動の準備のための「期待される新職業人像」を網羅して、創造力・表現力等の方法論の実践指導も図る。	<b>[講義計画]</b> (前期) 1 職業指導と生涯教育                            2 職業指導の必要性 3 就職活動への指針                                4 就職試験の実践指導 5 期待される新職業人像                            6 学生生活と社会生活の相違 7 働くことの意義                                    8 職業人の心得  (後期) 1 業務の上手な進め方                            2 ビジネス文書の書き方 3 電話の取り扱い方                                    4 職場の人間関係の重要性 5 創造力・表現力の実践指導                        6 魅力ある職業人を目指して 7 職業人の人間力を磨く手法など			
<b>[成績評価の方法]</b> 主として、出席を厳しく重視して評価する。併せて、学年末試験の成績等も勘案のうえ、総合評価とする。	<b>[参考文献]</b>			
<b>[教科書]</b>  松 原 勇 (著) 「経営革新時代の 新ビジネスマンの基礎知識」 (ぎょうせい)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
介護概論	0 1 0 2 0 3	9月集中 9月集中 9月集中	2単位 2単位 2単位	臼井 キミカ 佐瀬 美恵子 津村 智恵子
<b>[講義概要・学習目標]</b> 1 介護の役割と範囲を理解させるとともに、看護・医療及び家政との関係について理解させる。 2 具体的な介護の展開過程や介護の実際について演習形式等を活用し理解させる。 3 身体的及び精神的な変化に対する観察能力を身につけ、それらの変化に速やかに正しく対処できる能力を養い、保健・医療機関、専門職との連携、協力及び必要に応じたその手助けをすることができるようにする。 4 病気や遭遇しやすい事故についての知識をもち、それらに対する予防措置を講ずることができるようにする。	<b>[講義計画]</b> 1 介護の目標、機能及び範囲 1) 介護の原則、目標、機能及び範囲 2) 自立的な生活維持に対する需要と介護の役割 3) 成人期以降、老人・障害者の生活上の需要と介護の役割 4) 健康維持のメカニズム 5) 終末期の介護 6) 介護過程の展開 2 介護技法 (安全、快適、安寧、健康水準の低下予防等) の基本 1) 住生活環境の安全管理 (感染防止) 2) 食事 3) 排泄 4) 衣服の着脱 5) 入浴・身体の清潔と感染防止 6) 移動空間の確保 7) 健康習慣の獲得 8) 体力の維持 (運動と機能維持) 9) 自己達成と社会生活の維持 (レクリエーションと学習等) 10) 療養時の対応 11) 緊急・事故等の対応 12) 介護家族への生活維持援助 13) 福祉用具の活用 3 介護関係維持のための技法 1) 健康や生活の観察技法 2) コミュニケーションの技法 3) 記録と情報の共有化の技法 4) 介護専門職 (介護福祉士) と医師・看護師・保健師等医療専門職との連携のあり方 5) 介護専門職とその他の福祉専門職 (社会福祉士) との連携のあり方 4 介護活動の場に特有な問題と技法 1) 家庭 2) 施設			
<b>[成績評価の方法]</b>  レポートに出席状況を加味して評価する。				
<b>[教科書]</b>  編集代表 津村智恵子、臼井キミカ『介護実践ハンドブック』 (日総研出版) 定価3,500円	<b>[参考文献]</b>  その都度紹介する。			



科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
言語学概論		通 期	4 単位	林 宅 男
<b>【講義概要・学習目標】</b> 言語学とは言語の本質、構造、使用の規則等を科学的に研究する学問である。その研究内容や方法は多様で関連領域も広く、近年特に急速に発展を遂げてきたが、それが共通に目指しているところは言語を通しての人間そのものの理解であると言えよう。このことを念頭におきながら、本講義では、音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論、といった狭い分野にとどまらず、動物言語研究、社会言語学、言語習得論、文体研究、非言語コミュニケーション論を含む幅広い範囲にわたって、最近の動向を含めて出来るだけ分かりやすく紹介したい。更に、我々に最も身近な言語である日本語については、別にその諸相を解説する。ここで扱うのは何れも言語学の概観であるが、その知識、ものの考え方、研究方法が、言語学研究のみならず、人間や人間社会についてのより深い理解や、思考の錬磨につながることを願う。	<b>【講義計画】</b> 1. 「言語学」とは何か 2. 動物の「ことば」と人間の言語（動物言語研究） 3. 比較言語学（言語の起源と世界の言語属） 4. 言語音の体系（音声学・音韻論） 5. 語の構造（形態論） 6. 文の構造（統語論[生成文法]） 7. 言葉の意味と運用（意味論・語用論） 8. 言語と社会（社会言語学） 9. 言語とところ（言語習得論・言語心理学・言語人類学） 10. 言葉によらないコミュニケーション（非言語コミュニケーション論） 11. 日本語の諸相 12. 言語と文学（文体研究）			
<b>【成績評価の方法】</b> 出席、授業態度、レポート、試験を総合的に評価する。	<b>【参考文献】</b> ジョージ・ユール（著）今井邦彦・中島平三（訳）『現代言語学20章』大修館書店、1996 中島平三・外池滋生『言語学への招待』大修館書店、1994 ジーン・エイチソン（著）田中春美 ほか（訳）『入門言語学』、金星堂、1998年 小泉保（著）『日本語教師のための言語学入門』大修館書店 田中春美 ほか（編）『現代言語学辞典』成美堂、1988			
<b>【教科書】</b> 石黒昭博 ほか（編）『現代の言語学』金星堂、1996年				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
応用言語学		通 期	4 単位	橋 内 武
<b>【講義概要・学習目標】</b> 応用言語学とは何かについて考えたあと、 1. 言語問題の学（言語障害、識字、言語交替など） 2. 外国語教育学（教授法、教材・教具論、評価論） 3. 学際的言語学（言語学と隣接科学） 4. 言語と専門職の研究（通訳・翻訳、言語治療など） の4つの立場から応用言語学の課題と方法について明らかにしたい。 この科目を履修する過程で次第に身近な言語コミュニケーションの問題に関心が高まり、ことばについて多角的に考える習慣が形成されることが学習目的である。	<b>【講義計画】</b> <前期> 第1週～第2週： 序論・応用言語学とは何か 第3週～第7週： 言語問題の学 第8週～第13週： 外国語教育学  <後期> 第1週～第7週： 学際的言語学 第8週～第12週： ことばと専門職 第13週： まとめと復習			
<b>【成績評価の方法】</b> 試験による	<b>【参考文献】</b> R. B. カプラン編 『応用言語学入門』 研究社出版。 K. ジョンソン・H. ジョンソン編 『外国語教育学大辞典』 大修館書店。			
<b>【教科書】</b> なし。適宜プリントを用意する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
言語文化特講（社会言語学）		通 期	4 単位	橋 内 武
<b>【講義概要・学習目標】</b> 社会との関係でことばのしくみとはたらきについて考えるのが社会言語学である。ことばそのものを自律的な体系として捉える狭義の言語学とは異なり、それを社会との相互依存的な体系として捉えるのが社会言語学である。それゆえ、社会言語学は学際的傾向をもつ。 前期にはマイクロ社会言語学の中核をなす談話分析（discourse analysis）の基礎と方法と応用について学ぶ。後期にはそれ以外の分野の基本的事項（例えば、言語変種論・言語変異論・多言語社会論など）を押さえる。 究極的には、履修する学生諸君がことばに対する規範的な思い込みから解放されて、より幅の広い言語観をもつようになることをもって、本講の学習目標としたい。	<b>【講義計画】</b> <前期> 第1週～第3週 ミクロ社会言語学と談話分析の基礎（目的・対象・方法） 第4週～第10週 談話分析のアプローチ（談話文法、会話分析・ことばの民族誌） 第11週～第13週 談話分析の応用（法言語学・文体論・辞書編集・教材開発） <後期> 第1週～第4週 言語の多様性Ⅰ— 社会方言と言語変化 第5週～第8週 言語の多様性Ⅱ— レジスターと言語意識 第9週～第12週 多言語社会論Ⅰ— 言語保持と言語シフト、言語計画			
<b>【成績評価の方法】</b>	<b>【参考文献】</b> 井上史雄 『日本語ウォッチング』 岩波書店。 真田信治、タニエル・ロング 『社会言語学図集』 秋山書店。 真田信治、渋谷勝己・杉戸清樹 『社会言語学』 おうふう。 トラッドギル、P. 『言語と社会』 岩波書店。			
<b>【教科書】</b> 橋内 武 『ディスコース— 談話の織りなす世界』 くろしお出版。（前期用） 中尾俊夫・日比谷潤子・服部範夫 『社会言語学概論』 くろしお出版。（後期用）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
言語文化特講（対照言語学）		通 期	4 単位	佐 藤 恭 子
<b>【講義概要・学習目標】</b> 言語の基本的知識を学ぶことを目的とします。母国語としての日本語や、外国語として、習得の過程にある英語を中心として、外国語の全体構造を把握していきます。 いままで、言葉のしくみを、具体的に考えたことはないと思いますが、一見異なるようにみえる各言語にも共通性、普遍性があることに気づくことは重要です。	<b>【講義計画】</b> 1. 言語学とは。基本図書等の紹介。 2. 言語研究の枠組み—音韻、構文、意味、談話 3. 音韻論—音素の体系、アクセント 4. 形態論—単語、形態素 5. 統語論—文の構造 6. 意味論—意味の記述 7. 問題考察、まとめ 8. 語用論—言語と使用される状況 9. 社会言語学—言語と社会 10. 心理言語学—言語と心理的要素 11. 言語習得論—外国語学習の習得 12. コーパス言語学—言語とコンピュータ 13. 問題考察、まとめ			
<b>【成績評価の方法】</b> レポート	<b>【参考文献】</b> 言語学入門 （田中春英ほか。大修館書店。1994年 1650円） 教養のための言語学コース （小泉保 大修館書店。1984年） 講座 言語1 言語の構造 （柴田武 大修館書店。1980年） 日英語比較講座 5 文化と社会（国広哲也編 大修館書店。1993年 2100円） 外国語習得 その学び方100の質問 （水野 光晴 研究社出版 1995年3000円）			
<b>【教科書】</b> なし				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英語音声学 (旧英語学特講Ⅲ－音声学)		通 期	4 単位	ケビン グレグ Kevin R. Gregg
<b>[講義概要・学習目標]</b> 本授業はつぎの二つの目的をもっている： (1) 音声学と音韻論という、言語学の下位分野の基礎的な概念や原理を学生諸君に学んでもらうこと (2) その概念や原理を英語の音韻体系に適用してもらおうこと (1) については、例えばつぎの問題を取り上げる： ・人間言語における音（オン）は、どのようにして調音するのか ・ある個別言語では、二つの音が「同じ」か「違う」か、どう決めるのか ・人間言語の可能な音をどう分類すべきか ・発話する際、どのような規則に従っているのか (2) については、つぎのような、より具体的問題を勉強する： ・英語の音；その記述、その調音のしかた ・英語の音韻体系の主な規則 ・英語におけるストレス（強勢）とイントネーション	<b>[講義計画]</b>			
<b>[成績評価の方法]</b> 定期試験も複数の小テストも行なう。出席する義務は当然ないが、テキストがないからこそ、出席して念入りにノートをとらなければ、単位がとれる可能性は非常に低くなる。そして授業中私語をしたり眠ったりする学生は、早速除籍される。	<b>[参考文献]</b> 松本裕治ら『言語の科学入門』（『言語の科学、1』）岩波書店、1997 前川喜久雄ら『音声』（『言語の科学、2』）岩波書店、1999			
<b>[教科書]</b>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
異文化間コミュニケーション論		通 期	4 単位	遠 山 淳
<b>[講義概要・学習目標]</b> 講義の内容は、異文化間コミュニケーションの諸現象およびそのメカニズムや、情報、文化、コミュニケーションの相関関係、言語とコミュニケーション、宗教とコミュニケーション、歴史とコミュニケーション、などについて講義し、普遍文化と個別文化との関係、地球化時代の価値観・行動様式について考察する。 情報は文化を生成し、文化は人間に対して規範的に係わる。異文化間コミュニケーションの最大の問題は自文化なのである。さて諸君は自文化を越えられるだろうか。	<b>[講義計画]</b> 1. 異文化間コミュニケーション論とは 2. 「文化」とは：静態と動態、定義、情報代謝理論 3. 自文化中心主義と文化相対主義 4. コミュニケーションの志向性と型、動因と文化型 5. 言語と文化 6. 非言語コミュニケーション 7. コミュニケーション能力と言語能力 8. コミュニケーションの文化型：片立文化と両立文化 9-10. コミュニケーションの比較：日本とアメリカ 11. 「理解」法の比較 12. 定量的方法と定性的方法、特徴と限界			
<b>[成績評価の方法]</b> 前期末、学年末に試験またはレポートを課し、総合的に評価する。	<b>[参考文献]</b> 遠山他著 石井橋本編『日本人のコミュニケーション』桐原書店、1993 古田暁編・石井・久米他著『異文化コミュニケーション』有斐閣、1987 祖父江孝男『文化人類学入門 増補改訂版』中公新書、1992			
<b>[教科書]</b> 遠山他共編著『異文化コミュニケーション・ハンドブック』有斐閣、1998				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本事情研究Ⅰ		通 期	4 単位	原 田 達
<b>【講義概要・学習目標】</b>  現代日本のさまざまな社会的トピックスを素材にして、現代日本の基本構造に迫りたい。 話題として利用されるのは、日常的な事件・出来事・有名人・無名人など。 講義の基本的目標は、日本に留学してきた留学生に、現代日本社会の特徴を紹介し、その社会的・歴史的・文化的意味を知ってもらいたいことにある。主要な履修学生を留学生に設定しているため、日本人の学生さんには、当たり前とか、物足りないとか感じるかもしれない。	<b>【講義計画】</b>  まず、最近の日本社会の「話題の人」を取りあげて、彼らの社会的・歴史的・文化的意味について考えたい。取りあげようと思っているのは、たとえば松たか子、柳川喜郎、キティ、ゴジラ、寅さん、などなど。 とはいえ、ここで芸能裏情報を話すつもりはないし、ぼくにそれはできない。ぼくができることは、かれらの社会的・文化的意味の解説だ。松たか子が藤原紀香に勝てるかは判らないけれど、松たか子の生まれ育った社会の解説ならできる。 また、出来事としては、たとえば東海村の臨界事故を取りあげたい。あの事故は、ある意味では「戦後社会」の終焉であった。それはなぜか？			
<b>【成績評価の方法】</b>  試験をします。思いついたようにレポートを課します。	<b>【参考文献】</b>  その都度指示します。			
<b>【教科書】</b>  ありません。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本事情研究Ⅱ		通 期	4 単位	岡 村 清 人
<b>【講義概要・学習目標】</b>  日本が、近年飛躍的な発展を遂げている背景に、優れた工業材料の開発がいかに深いかかわりを持っているかについて講義を行う。第二次世界大戦後50年、日本の産業発展に大いに寄与している鉄鋼材料、そして、今日の半導体材料、セラミックス材料や複合材料などの先進材料が、今後の日本および世界の発展にいかに関連しつつあるかについて説明する。さらにこのような発展をもたらしている根源についても追求する。 次に、発展に伴って、生活が豊かになり、リスクを負う状況にもなる。例えば産業廃棄物による環境破壊などである。従って経済発展、資源・エネルギーの確保、地球環境保全のトリレンマの克服が今後の重要な課題である。これらの課題について言及する。	<b>【講義計画】</b>  〈前期〉 工業材料の発展の柱になっている鉄鋼材料の具体的な説明を行い、それらの明治、大正、昭和、平成における発展の過程、社会への寄与、そして21世紀における創造的発展の可能性について、日本の教育体制などと関連させて講義を行う。  〈後期〉 今日の先進材料と呼ばれている半導体材料、セラミックス材料、複合材料などが、工業材料として日本で大いに発展している事情について講義を行う。そして、これらの工業材料の専心的開発が日本の将来の発展にいかなる影響を与えるかについて予測する。またそれらに伴うリスクについても言及する。			
<b>【成績評価の方法】</b>  レポートを主とし、出席など総合的に考慮して評価する。	<b>【参考文献】</b>  ・大石 嘉一郎（編）『日本産業革命の研究 上・下』（東京大学出版会） ・堂丸 昌男・山本 良一（編）久松 敬弘 他共著 『未来社会と材料工学』（東京大学出版会） ・H. W. ルイス（著） 宮永 一郎（訳）『科学技術のリスク』（昭和堂） ・村上 陽一郎（著） 『文明のなかの科学』（青土社） ・成定 薫（著）『科学と社会のインターフェイス』（平凡社自然書庫24）			
<b>【教科書】</b>  村上陽一郎（著）『科学・技術と社会』（光村教育図書） 1,600円				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語学概論		通 期	4 単位	有 川 康 二
<b>[講義概要・学習目標]</b> 次の日本語学習者の質問に答えてほしい。「『は』に濁点がつくと『ば』。でも、『な』に濁点の『な』が発音できないのは何故?」「大(おお)+型(かた)=おおがた(連濁あり)。×おおかた)なのに、何故、大(おお)+風(かぜ)=おおかぜ(連濁なし)。×おおかぜ)なのか。」「『私は田中です』と『私が田中です』はどこがどう違うのか。」 答えられなくても心配御無用。(簡単に解答されてはこのような問題を飯の種にしている人達(=教師)が困ります。)日本人なら誰でも日本語を「使う」ことはできるが、その複雑な仕組みについて原理的に「説明する」ことは出来ない。(脳味噌は誰でも使えるが、脳味噌の中で何が起きているのか説明できないのと同じ。)日本語学を次の三つの視点から概論する。(1)生物言語学の視点=霊長目ヒト科哺乳類の奇形的に腫れあがった脳のニューロン群の働きの一例としての日本語。(2)教育学の視点=日本語を母語としない者が効果的に日本語を習得する為の実用的な説明。(3)哲学の視点=「自分とは何者か」という問いを(暇な時に)考えるための手がかり。	<b>[講義計画]</b> <前期> 1. 文字と音 (e.g. 音素と発音の関係、拍、濁点など) 2. ことばの単位 (e.g. 連濁、形態素、活用など) <後期> 3. 文の成り立ち (e.g. 必須補語 vs. 副次補語、c-command、取り立て助詞「は」、埋め込み文、テンスなど)			
<b>[成績評価の方法]</b> 出席・筆記試験	<b>[参考文献]</b> 野田尚史『はじめての人の日本語文法』(くろしお出版)			
<b>[教科書]</b> 上山あゆみ『はじめての人の言語学—ことばの世界へ』(くろしお出版)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語文法・文体論		通 期	4 単位	有 川 康 二
<b>[講義概要・学習目標]</b> 外国語学習に「おかし」文はつきものである。(※:おかしな文。) a.*困ったらいつでも私へ来なさい。 b.*私が京都で撮ったの写真 c.*私の父は山田先生を知ります。 d.*先生、私の推薦状はもうお書きになったんですか。(このままでは失礼)何故おかしいのか。だが、彼らには彼らなりの論理がある。(a)は「come to me」と言うから。(b)は中国語では「我在京都照像的照片」で、「的」という日本語の「の」にあたるものがあるから。(c)は「know」=「知る」だから。(d)は尊敬語を使用しているから問題ないはず。教科書として使用する『日本語の文法』には日本語のきまりと仕組みを探るためのおよそ百題の問いが用意してある。それらの中からポイントとなる問題を解いていく。	<b>[講義計画]</b> <前期> 1. 日本語のきまりと仕組み、2. 文の構成要素とその種類分け、3. 「こと」の種類(述語の種類とその補語との結びつき)、4. 「主語」「主格」「主題」、5. 述語の活用、6. テンス・アスペクト、7. 態(ヴォイス一格と動詞の形との相関)、8. 心的態度(ムード)の表現 <後期> 10. 複文の種類、11. 並列的接続、12. 理由・原因、13. 時の特定、14. 条件の表現、15. 連体修飾			
<b>[成績評価の方法]</b> 出席・筆記試験	<b>[参考文献]</b> 寺村秀夫(著)『日本語のシンタクスと意味Ⅰ』(くろしお出版) 寺村秀夫(著)『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』(くろしお出版) 寺村秀夫(著)『日本語のシンタクスと意味Ⅲ』(くろしお出版)			
<b>[教科書]</b> 寺村秀夫(著)『日本語の文法(上)』(国立国語研究所(日本語教育指導参考書4)) 寺村秀夫(著)『日本語の文法(下)』(国立国語研究所(日本語教育指導参考書5))				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者		
語彙・意味論		前 期	2 単位	藤 原 健		
<b>【講義概要・学習目標】</b> <p>ことばによる表現が、単語を一定の文法規則に従って文の形にまとめ上げることであるとすれば、表現にはいくつかの単語が使われていると考えるのが普通であろう。私たちが使っている日本語も、数多くの単語を意味伝達的手段として、それを文や文章、談話の形にまとめ上げているのである。「語彙」とは、このような文章や談話を形成するための要素として用いられる単語の集まりのことであり、言語にとって文法と同等に重要な要素である。</p> <p>この講義では、日常的な平易な用例をもとに、日本語の語彙の意味や構成を分類し、普段使っている日本語の語彙について、いろいろな面から考えてみたい。</p>	<b>【講義計画】</b> <table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 1. 単語と語彙  1) 単語とは  2) 語彙とは  3) 語形  2. 語の数  1) 基礎語彙と基本語彙  2) 使用語彙と理解語彙  3) 語数とカバー率 </td> <td style="vertical-align: top;"> 3. 語の種類  4. 語構成と造語法  1) 語の構成成分  2) 造語法  3) 造語に伴う音声変化  5. 語の意味  6. 意味に関する問題点  7. 語彙教育のポイント </td> </tr> </table>				1. 単語と語彙 1) 単語とは 2) 語彙とは 3) 語形 2. 語の数 1) 基礎語彙と基本語彙 2) 使用語彙と理解語彙 3) 語数とカバー率	3. 語の種類 4. 語構成と造語法 1) 語の構成成分 2) 造語法 3) 造語に伴う音声変化 5. 語の意味 6. 意味に関する問題点 7. 語彙教育のポイント
1. 単語と語彙 1) 単語とは 2) 語彙とは 3) 語形 2. 語の数 1) 基礎語彙と基本語彙 2) 使用語彙と理解語彙 3) 語数とカバー率	3. 語の種類 4. 語構成と造語法 1) 語の構成成分 2) 造語法 3) 造語に伴う音声変化 5. 語の意味 6. 意味に関する問題点 7. 語彙教育のポイント					
<b>【成績評価の方法】</b> <p>定期試験（半期科目であるので、前期1回）により評価する。  詳しくは、授業初回到説明する。</p>	<b>【参考文献】</b> <p>浅野百合子（著）『教師用日本語教育ハンドブック◎語彙』  （国際交流基金／凡人社）</p>					
<b>【教科書】</b> <p>森田良行・村木新次郎・相沢正夫（編）『ケーススタディ・日本語の語彙』  （おうふう）</p>						

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者	
文字・表記論		後 期	2 単位	藤 原 健	
<b>【講義概要・学習目標】</b> <p>言語は、音声を媒体とした音声言語と、文字を媒体とした文字言語とに大別できる。この講義では、これらのうち後者の媒体となっている文字について、日本語の場合を扱う。</p> <p>日本語の表記に用いられる文字は数も種類も多く、また使いかたが複雑である。外国人の日本語学習者にとって、日本語の文字・表記は習得が大変で、ネックになることが多い。この講義では、日本語教育の立場から、実践の場で教師に求められる文字・表記に関する知識と、指導する際に注意しなければならない点などを考えていきたい。</p> <p>1年次に「論述作文」を履修した人も多いと思うが、日本語を「表記する」という点から見つめ直すいい機会になればと思う。学部・専攻に関係なく、日本語に興味・関心のある人の受講を歓迎する。</p>	<b>【講義計画】</b> <table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 1. 日本語の表記法と基準  1) 漢字の表記法（「常用漢字表」）  2) 平仮名の表記法（「(改定)現代仮名遣い」）  3) 片仮名の表記法（「外来語の表記」）  4) 送り仮名の付け形  5) ローマ字の種類と表記法  2. 文字に関する知識  1) 漢字（の成り立ち）  （六書、部首、画数、字形等）  2) 仮名（の成り立ち）  （真名、平仮名、片仮名等） </td> </tr> </table>				1. 日本語の表記法と基準 1) 漢字の表記法（「常用漢字表」） 2) 平仮名の表記法（「(改定)現代仮名遣い」） 3) 片仮名の表記法（「外来語の表記」） 4) 送り仮名の付け形 5) ローマ字の種類と表記法 2. 文字に関する知識 1) 漢字（の成り立ち） （六書、部首、画数、字形等） 2) 仮名（の成り立ち） （真名、平仮名、片仮名等）
1. 日本語の表記法と基準 1) 漢字の表記法（「常用漢字表」） 2) 平仮名の表記法（「(改定)現代仮名遣い」） 3) 片仮名の表記法（「外来語の表記」） 4) 送り仮名の付け形 5) ローマ字の種類と表記法 2. 文字に関する知識 1) 漢字（の成り立ち） （六書、部首、画数、字形等） 2) 仮名（の成り立ち） （真名、平仮名、片仮名等）					
<b>【成績評価の方法】</b> <p>定期試験（半期科目であるので、後期1回）により評価する。  詳しくは、授業初回到説明する。</p>	<b>【参考文献】</b> <p>国立国語研究所（編）『日本語教育指導参考書14 文字・表記の教育』  （大蔵省印刷局）</p>				
<b>【教科書】</b> <p>富田隆行・真田和子（共著）『教師用日本語教育ハンドブック◎新・表記』  （国際交流基金／凡人社）</p>					

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語教授法Ⅰ		通 期	4 単位	有 川 康 二
<b>[講義概要・学習目標]</b> どんな教授法（教え方の哲学や方法）にも、どんな教科書にも長所と短所がある。要は様々な教授法や教科書の長所をなるべく多く利用することである。ここでは、日本語の初級文法に焦点を絞り、（教師にとっての）実践的な文法整理と（学習者にとって）効果的なドリルの紹介やシミュレーションを行う。一定の制限された状況（＝教室内）や時間内（初級の集中コースとして例えば、週 15 時間の約 6 か月）に日本語を母語としない人に日本語文法全体の基礎的な体系を順序よく説得的に説明し、効果的に練習を行い「使える日本語」を身につけてもらうためには、教える側に特別な知識と技術が必要となる。さらに「何故、外国語を学ぶのか、何故、日本語を外国語として教えるのか」といった日本語教育哲学に通ずるような問題意識も持ち続けてほしい。		<b>[講義計画]</b> <前期> 1. こそあど、2. い形容詞・な形容詞、3. 存在、4. 時制、5. ～て、～て、6. ～ている、7. 希望・願望、8. 提案・申し出・勧誘、9. 可能形、10. 経験、11. 意志、12. 許可・禁止 <後期> 13. 様態、14. 推量（ようだ・らしい）、15. 理由・原因、16. 逆接、17. ～ている・～である・～ておく、19. 授受動詞、20/21. 受身・使役・使役受身、22. 条件		
<b>[成績評価の方法]</b> 出席・筆記試験		<b>[参考文献]</b> 三浦昭『初級ドリルの作り方』（凡人社）		
<b>[教科書]</b> 東京 YMCA 日本語学校（編）『入門日本語教授法』（創拓社）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語教授法Ⅱ	0 1	前 期	2 単位	友 沢 昭 江
<b>[講義概要・学習目標]</b> 日本語学習者の多様化にそって、多くの教材が開発されています。実際の教育に携わる者は、学習者の学習目標や言語背景を考慮に入れ、最も効果的な成果をあげるために最適な教材を選択する眼を持たなければなりません。さらには、市販の教科書や教材ではまかないきれない部分を補充するための自主作成教材を臨機応変に作成する能力も必要とされます。本講では、市販されている教科書を分析するとともに、自らも教材を作成します。授業は、前半は講義形式で行い、後半はグループに分かれて自分達想定する学習者を対象とした教材開発を行います。		<b>[講義計画]</b> 前半は、様々な市販の教材の構成を研究します。後半はグループで教材を作成します（基本プランの確定、分担の決定、作業の進捗状況の報告、作成教材を提示し、クラスで評価を行います）。		
<b>[成績評価の方法]</b> 講義内容に関する小テストを数回行います。後半のグループ作業の途中経過の報告、最終的な教材の提示、クラスでの評価を総合して全体の評価を行います。半期（13回）の授業なので、基本的に全回出席した人を評価の対象とします。		<b>[参考文献]</b> 『初級ドリルの作り方』（三浦昭、凡人社） 『教え方の基本』（日本語教育演習シリーズ⑤、丸山敬介、凡人社） 『日本語教師をめざす人の日本語教授法入門』（石橋玲子、凡人社）		
<b>[教科書]</b> 特に指定しません。（教員により配付されるプリント等を使用します。）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語教授法Ⅱ	02	後 期	2 単位	友 沢 昭 江
<b>[講義概要・学習目標]</b> 日本語学習者の多様化にそって、多くの教材が開発されています。実際の教育に携わる者は、学習者の学習目標や言語背景を考慮に入れ、最も効果的な成果をあげるために最適な教材を選択する眼を持たなければなりません。さらには、市販の教科書や教材ではまかないきれない部分を補充するための自主作成教材を臨機応変に作成する能力も必要とされます。 本講では、市販されている教科書を分析するとともに、自らも教材を作成します。授業は、前半は講義形式で行い、後半はグループに分かれて自分達想定する学習者を対象とした教材開発を行います。	<b>[講義計画]</b> 前半は、様々な市販の教材の構成を研究します。後半はグループで教材を作成します（基本プランの確定、分担の決定、作業の進捗状況の報告、作成教材を提示し、クラスで評価を行います）。			
<b>[成績評価の方法]</b> 講義内容に関する小テストを数回行います。後半のグループ作業の途中経過の報告、最終的な教材の提示、クラスでの評価を総合して全体の評価を行います。半期（13回）の授業なので、基本的に全回出席した人を評価の対象とします。	<b>[参考文献]</b> 『初級ドリルの作り方』（三浦昭、凡人社） 『教え方の基本』（日本語教育演習シリーズ⑤、丸山敬介、凡人社） 『日本語教師をめざす人の日本語教授法入門』（石橋玲子、凡人社）			
<b>[教科書]</b> 特に指定しません。（教員により配付されるプリント等を使用します。）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語教授法Ⅲ		通 期	2 単位	友 沢 昭 江
<b>[講義概要・学習目標]</b> 本講では日本語学および日本語教授法関連の授業を受講した後、その知識や経験を総合して、実際の教育の場面で学習者とのようなインターアクションを行うかという、実践力の養成を目的とします。知識として獲得したことをいかに効果的に提示し、学習者のもつ多様なニーズや問題をどのように処理するかを、実際の授業形態の中で学びます。そのため、原則として日本語教授法Ⅰおよび日本語教授法Ⅱを終了した人へのみ受講を認めます。	<b>[講義計画]</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な教授法をビデオによるモデル授業を見ること等を通して比較検討します。</li> <li>・グループに分かれて、基本的な教授内容をいかに実際の教育現場で教えるかを研究し、発表します。</li> <li>・グループ単位で、実際の授業を組み立て、模擬授業として発表します（二回）。</li> <li>・留学生とチームを組んで、共同プロジェクトを行います。</li> <li>・実際の日本語授業を見学したり、夏期休暇中には学外(国内・海外)での教育実習（希望者）を行います。</li> </ul>			
<b>[成績評価の方法]</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学期初めにノートを作り、毎回の授業の内容をまとめる外、適宜出される課題もそこに書き込み、一月間に一回程度の割合でノートを提出してもらい、それを出欠を含む、授業への貢献度の材料として判断します。</li> <li>・グループ単位で行う作業は、学生間の相互評価を行います。（各自が評価表に書き込み、それをクラスで閲覧して、フィードバックとします。）</li> </ul>	<b>[参考文献]</b> 『日本語教育論集』（吉田彌壽夫監修、学研） 『概説日本語教育』（遠藤織枝編、三修社） 『日本語教授法』（石田敏子、大修館書店） 『実践日本語教授法』（名柄迪監修、中西家栄子他、ハベルブックス） 『外国語教育理論の史的発展と日本語教育』（名柄迪他、アルク） 『日本語教育への道』（土岐哲他、凡人社）			
<b>[教科書]</b> 教員の用意する配付物を使います。				



科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
産業考古学		通 期	4 単位	並 川 宏 彦
<b>【講義概要・学習目標】</b> 産業考古学とは、過去の産業の遺物・遺跡を調査・研究し、その技術・文化の発展の過程を明らかにすることである。また、産業の発展に伴って生じた環境問題や社会問題についても、過去の産業の歴史を通じて考察することを目指す。	<b>【講義計画】</b> 産業の発展の歴史、産業の技術の進歩、産業の社会への影響、産業の文化の発展、産業の環境問題、産業の未来展望。			
<b>【成績評価の方法】</b> レポートの提出と試験の成績。試験の点数とレポートの評価で成績をつける。	<b>【参考文献】</b> 産業記念物調査研究会「近畿の産業博物館」阿吽社			
<b>【教科書】</b>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
東洋美術史		通 期	4 単位	林 宏 作
<b>【講義概要・学習目標】</b> 美術の範疇は、広く、絵画・彫塑・建築・工芸など、凡そ空間ならびに視覚の美を表現する芸術すべてがその範疇に属するものである。この講義には、先史時代を始め、殷・周・春秋・戦国・秦・漢・南北朝・隋・唐・宋・元・明・清など、時代を縦割りにして中国絵画史の連続性を究め、さらにそれぞれの時代を横割りにして広範な視野から中国絵画の全貌を眺めてみたい。	<b>【講義計画】</b> ① 中国絵画の流れ ② 中国絵画の特質 ③ 古代の絵画 ④ 唐宋の絵画 ⑤ 画院の画家 ⑥ 元四大家と文人画			
<b>【成績評価の方法】</b> レポートの提出と試験の成績	<b>【参考文献】</b> 傅抱石「中国美術年表」(中華書局) マイケル・サリバン「中国美術史」(新潮社) 王耀庭「中国絵画のみかた」(二玄社)			
<b>【教科書】</b>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
博物館学特講 産業遺産研究と博物館		通 期	4 単位	種 田 明
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>産業遺産(industrial heritage)は、わが国の明治以降現代にいたるまでの“工業化”過程に関するさまざまな情報の宝庫である。いわゆる「世界遺産(world heritage)条約」(UNESCO, 1972年)発効以来、世界遺産として保存・活用される産業遺産の数も少しずつ増えてきている。(わが国の条約批准は1992年)</p> <p>産業遺産を博物館として、産業遺産の中に博物館を設立して、あるいは博物館の中に(例えば広域・野外博物館の域内に)産業遺産を保存・活用している事例を、日欧を中心に考察する。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>前期：テキストに沿って講義し、解説する。</p> <p>後期：英文テキスト(配布する)</p> <p>Michael Stratton &amp; Barrie Trinder, Book of Industrial England, (B.T. Batsford/English Heritage) London, 1997 から抜粋; また、担当者の収集資料(2000年8月)から抜粋したものを 分担して読んでもらう。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>前期レポート：日本の産業遺産の調査研究(2000字以上、9月末提出) 後期レポート：ヨーロッパの産業遺産に関する報告(英文)の番訳(邦語2000字程度、9月末配布する/12月提出)</p>	<p>[参考文献]</p> <p>講義中に指示紹介する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>日本産業遺産研究会+文化庁歴史的建造物調査研究会 編著 『建物の見方・シバ方 近代産業遺産』ぎょうせい、1998年</p>				